TIP
38期
報告書
挑戦から最高の経験へ！～まだ知らない世界を見つけタイ～

～目次～

代表挨拶
メンバー紹介
ポロシャツ
EDF紹介 TP10期のVISION・MISSION・RULE 渡航スケジュール

1章

～調査企画～
LGBTQ班
教育班
対日班
流行班

2章

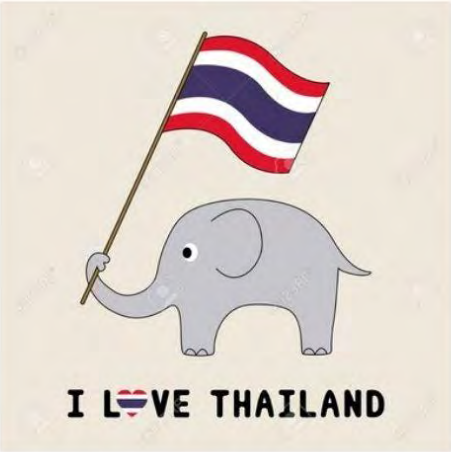
～交流企画～
水引班
パフォーマンス班
スポーツ班
縁日班

3章

～その他企画～
英語ディスカッション
インスタ班
フリマ班
ホスピタリティ班
日本・和歌山紹介
白玉班

4章

個人体験記
VISION・MISSION・RULE達成度
編集後記



代表挨拶

初めまして。タイ・プログラム 10 期の代表を務めさせていただいた、和歌山大学観光学部 2 回生(2023 年度現在)の佐々木そらです。私たちタイ・プログラム 10 期は 2023 年の 2 月 15 日から 2 月 26 日までの 12 日間にわたり、タイへ渡航しました。

まず、今回の渡航においてご支援・ご協力してくださった EDF の皆様、藤山先生、ティーチングアシスタントの佳奈さん(8 期)、本当にありがとうございました。TP10 期のメンバーの中には人生で初めての海外渡航という人も少なくなく、またタイに行ったことがない人も多かったため不安がありましたが、優しく、頼もしい EDF さんのおかげで充実した渡航とすることができました。また、藤山先生には 1 年間本当にお世話になりました。事前講義から渡航中、事後講義を通じて、我々TP10 期の個性を尊重しつつ、我々の活動がうまくいくように支えてくれていました。藤山先生なしでは今回の充実した渡航はなかったと考えます。また、新型コロナウイルスの影響で 3 年間タイ・プログラムが行われなかったですが、今回タイ・プログラムの実施に踏み切ってくださり本当にありがとうございました。おかげで、素敵な仲間と出会うことができました。最後に、ティーチングアシスタントの佳奈さんには事前講義から渡航中まで、我々メンバー様々な悩みに乗ってくださいました。過去の渡航経験からのアドバイスは非常に参考になりました。私たち、TP10 期はたくさんの方々のご支援の下今日まで活動することができました。ありがとうございました。

次に、タイ・プログラムの参加を検討している皆様へ。

「一旦、参加申し込みしてみませんか？」

タイ・プログラムを通して私たちはたくさんのことを学び、人生の経験として得ることができましたが、その中で特に大切だと感じたことは「出会い」だと私は考えます。国内で出会った、藤山先生、ティーチングアシスタントの佳奈さん、TP10 期のみんなに加えて、EDF の皆様、タイで交流した学生たちだけでなく、渡航中には調査企画における街頭インタビューの時間や自由時間に多くの海外の方と出会うことができました。
このような体験は簡単に得ることができるものではないと考えます。迷っている方は一回参加申し込みをしてみませんか。きっと素敵な出会いを得ることができます！

最後に、タイ・プログラム 10 期生のみんなへ。
本当に不甲斐ない代表だったけど、今日までみんなと一緒に TP10 期としてやっていくことができて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとう。最初は不安でいっぱいだったけど、みんなの優しさや温かさに本当に助けられました。TP10 期としての活動はもう終わってしまうけれども、この出会いは 1 年で終わらせたくない！これからもよろしくね。

和歌山大学観光学部 2 回生　　佐々木　そら

ぼくらのポロシャツ作製と情熱

伊藤里莉、岡本珠理

1. 概要

渡航中に TP10 期が着用するポロシャツの作製を行った。表面、背面共にデザインを入れることにした。表面のロゴは TP の英語表記をアレンジして作製した。 事前に TP10 期に着用しやすいポロシャツの特徴を聞き、その結果から、①分厚い生地　②日本らしさ　③タイらしさ　④普段使い可能　の 4 つに考慮した。一度 TP10 期からどのようなデザインが良いか個々に画像と文章で送ってもらい、それらを基に背面デザインを決定した。ポロシャツの色はサイトで注文できる色を基に多数決をとり、ネイビーに決定した。注文する際はポロシャツ班で安価なサイトを探した。

また、背面デザインに入れる個人の名前はプライバシーに考慮して、本名かニックネームかを選択してもらい、ポロシャツ班に入れて欲しい名前を伝えてもらうことにした。

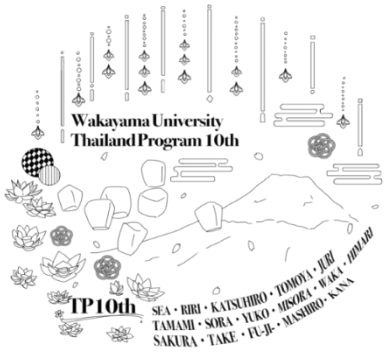
ポロシャツ作製の際の実際のスケジュール

R4/10/30	TP 合宿 2 回目にてポロシャツ班発足
R4/11/29	ポロシャツデザイン案 募集開始
R4/12/05	ポロシャツデザイン案 〆切
R4/12/22	第 1 回原案提出
R5/1/6	ポロシャツデザイン完成
R5/1/26	ポロシャツ注文 領収証発行 集金開始
R5/2/4	ポロシャツ到着
R5/2/13	ポロシャツ配布

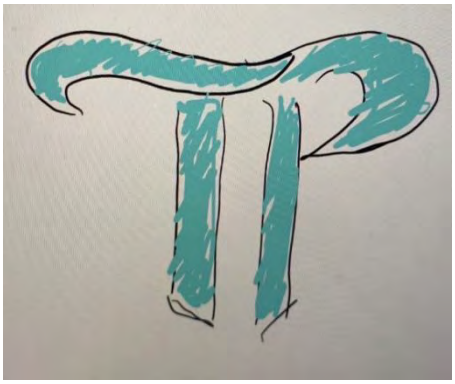
2. 結果

表面デザイン、背面デザイン共に iPad を使用してアイビスペイント X で制作した。表面の TP の文字は通常のプリント印刷にすると見栄えが悪くなることを危惧し、少し価格が高めではあるが、刺繍にした。

また、TP9 期の報告書で、「インターネット等で様々なデザイン・画像を参照しながら班で話し合い、作成したいデザインのイメージを固めた」「なかなかイメージが固まらず、デザインにかなりの時間を要した」と述べられていた。そのため、1 人ひとりが持っているイメージを合わせるとデザインがまとまらず、時間がかかりそうだと判断した。また、TP10 期から入れたいパーツ、デザイン案をいくつか集め、その中から日本やタイのイメージに合うものや、その友好性を表し、且つ印刷したときに潰れにくいデザインを選んで組み合わせることにした。全員の名前とメンバーのアイデアがポロシャツのデザインに反映されていることで、TP10 期がひとつになれていることを表すことができて良かったと思う。



↑図 1　実際のポロシャツの背面デザイン
メンバー2 人の名前が抜けている



↑図 2　実際のロゴのラフデザイン
最終的には実線でつなげて中を無色にした

↑図 3　実際のポロシャツの全体写真と着用写真

3. 改善点

(1)2 人のメンバーの名前が抜けていたこと

TP10 期全員の名前がなかった。数回にわたり全体の LINE グループで確認してもらったが、そこで誰も気づかずにそのまま作製してしまった。必ず TP10 期全員に自分の名前があるかどうか確認してもらうと共に、ポロシャツ班も厳重に確認すべきであった。

(2)価格が高くなってしまったこと

TP9 期以前はポロシャツを 1 人 2 枚ずつ注文していることを知らなかったため、1 人 1 枚 3389 円となった。過去の報告書を参考にすると、少々高くなった。しかし、私たちが探したサイトの中では最も安価であったため、生地へのこだわりや刺繍へのこだわりがなければ、もう少し価格を抑えることができたと思う。ぜひ参考にして欲しい。

4. 使用感やデザインへの感想

以下、TP10 期からのポロシャツの感想を紹介する。

- ポロシャツに速乾性があり良かった。
- 涼しいし、タイの気候に丁度合っていた。
- 後ろのプリントが大きかったので現地の学生と混ざっても一瞬で見分けることが出来た。
- 色やデザインがシンプル、且つ格好良くて可愛い。
- 胸のロゴがプリントではなく刺繍なのがおしゃれで良かった。

注文に活用したサイト；https://www.forcus.co.jp/products/detail/002/990

ータイでお世話になった方々ー

Getting to know EDF

EDF, the Education for Development Foundation was established in 1987 and officially registered as a Public Charity No.255 with tax-exempted status under the laws of Thailand.

The 10th Wakayama university Trip Handbook より

PLOYさん
明るいEDFリーダーであり
BESTさんの母でもある。

JOKEさん
かわいい一面も?!
移動中のガイドも面白い

TOYさん
素敵な笑顔で私たちに
寄り添ってくれました

BESTさん
渡航中ずっとお世話になりました。
大量のバターコーンと写真をありがとう

TANGさん
そのキャラクターで
TP10期から絶大な人気を誇る。

POPさん
フリマでお世話になりました！
優しく頼りになるスタッフさん

Thank You

MINTさん
頼れるTPの通訳さん

CHRISTINEさん
APUからのインターン生

TP10 期考案！！VISION・MISSION・RULE

TP10 期は、活動の柱となる VISION・MISSION・RULE を第 1 回の合宿で決定した。初めて TP10 期で議論し合い、これらを決めていく過程を経験できたことは、この先の活動で互いの思いを伝え合う雰囲気を作ることにつながった。VISION・MISSION・RULE を決めた目的は、全員が TP の活動において共通の目標を持つことである。決定の際には、VISION・MISSION・RULE の一貫性もかなり意識した。

以下は、TP10 期考案の VISION・MISSION・RULE である。

MISSION

(1) 計画的に活動する
(2) 常識にとらわれない企画作り
(3) メンバー間で、気づき・発見を共有する
(4) SNS を活用して、TP での経験を 1 人でも多くの人に発信する

RULE

(1) 情報共有を置き去りにしない
(2) 仲間の声に全員が反応して 1 人で抱え込まない
(3) 行動に責任を持ち中途半端にしない
(4) タイの生活・文化を尊重する

上記の達成度・評価については、〇〇ページに記載している。渡航が終了し、前期の 5 月中旬から編集局 で VISION・MISSION・RULE の振り返り方を考え、google form の質問項目を練った。5 月下旬に google form が完成し、6 月上旬から回答の収集を始めた。回答の際には、藤山先生作成の渡航中「振り返り form」も同時に見ながら書き込むようにした。渡航中に各々がどう感じていたかも合わせて振り返ることができた。

事前研修スケジュール　10/1～2/14

10 月から、毎週月曜日 5 限「国際理解とフィールドスタディーⅠ」の時間に、タイに関する学習や、現地での活動・企画の事前準備を計 15 回に渡って行った。

・8 月 8 日　TP10 期初顔合わせ
・10 月 29～30 日　第 1 回合宿（大阪ユースホステル）
VISION・MISSION の決定や各企画の班分けを行った。また、懇談会や BBQ を行い TP10 期の仲も深まった。

・1 月 28～29 日　第 2 回合宿（和歌山市　青少年国際交流センター）
各企画のリハーサルと確認、また水引とパフォーマンスの練習を行った。

講　義	日　時	議　　題
顔合わせ	2022 年 8 月 8 日	・自己紹介 ・夏休み課題の説明
第 1 回	10 月 3 日	・渡航までのスケジュール確認 ・夏休み課題の発表（1）
第 2 回	10 月 17 日	・夏休み課題の発表（2） ・第 1 回合宿の説明
第 3 回	10 月 24 日	・夏休みの課題発表（3）
第 1 回合宿	10 月 29 日 ～30 日	・VISION と MISSION の決定 ・調査企画（ジェンダー班・対日班・流行班・教育班）とその担当の決定 ・交流企画（スポーツ班・縁日班・水引班・パフォーマンス班）とその担当の決定
第 4 回	10 月 31 日	・調査企画の進捗共有・意見交換（全班）
第 5 回	11 月 7 日	・交流企画の進捗共有・意見交換（全班）
第 6 回	11 月 14 日	・調査企画の進捗共有・意見交換（全班）
第 7 回	11 月 22 日	・SNS の方針について ・English Discussion のテーマ決め ・交流企画の進捗共有（縁日班・スポーツ班）
第 8 回	11 月 28 日	・調査企画の進捗共有・意見交換（全班） ・交流企画の進捗共有（パフォーマンス班・フリマ班）
第 9 回	12 月 12 日	・English Discussion テーマ別担当決め ・交流・調査班企画書提出
第 10 回	12 月 19 日	・調査企画進捗共有（対日班・流行班） ・その他企画進捗共有（ポロシャツ班・日本食班） ・交流企画進捗共有（水引班・パフォーマンス班）
第 11 回	12 月 26 日	・交流班企画書最終確認と物品確認（全班） ・その他企画進捗共有（ホスピタリティ班・フリマ班）
第 12 回	2023 年 1 月 6 日	・カセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）からの依頼確認 ・調査企画進捗共有（対日班・教育班）
第 13 回	1 月 16 日	・企画書英語版の確認
第 14 回	1 月 23 日	・持ち物担当リスト決定 ・第 2 回合宿の詳細説明
第 2 回合宿	1 月 28 日 ～29 日	・リハーサル（縁日班・スポーツ班・日本紹介班・日本食班） ・水引・パフォーマンス練習
第 15 回	1 月 30 日	・提出物と持ち物の確認 ・交流企画・その他企画物品チェックと最終確認（全班）

渡航スケジュール

日　時	場　所	活　　動
2月15日	日本・チェンマイ	関西空港～スワンナプーム空港～チェンマイ空港
2月16日	チェンマイ Maeon Wittayalai School	Maeon Wittayalai School 到着 Welcome Ceremony 日本和歌山紹介 タイ式ランタン"Lanna Hanging Lamp"づくり ニッポン文化体験 Local Learning Center 見学
2月17日		日本食実演とタイ料理作り体験 校外学習 Sidewalk to Wild wood スポーツ パフォーマンス(Dinner & Farewell party)
2月18日		喜捨 Maeon Wittayalai School 出発 象保護センター見学 寺院見学 in Wat Phra That Doi Suthep
2月19日	チェンマイ	Queen Sirikit Boating Garden 見学 屋外アクティビティ in Doi Mon Jam Jungle &Coaster Pong Yang Adventure
2月20日	バンコク	チェンマイ空港～スワンナプーム空港 バンコク到着 調査班街頭インタビュー
2月21日		寺院見学 in Wat Yai Chai Mongkol &Wat Maha That ディナークルーズ
2月22日	バンコク サティカセ MP	サティカセ MP 到着 学校見学・水引 タイマナー講座・フラワーアレンジメント
2月23日		Thai Traditional Costume 体験 English Discussion・パフォーマンス
2月24日		サティカセ MP 出発 ショッピング in SIAM TAKASHIMAYA フリーマーケット (Hua mum Market)
2月25日	バンコク	Chatuchak Weekend Market 見学 スワンナプーム空港出発
2月26日	日本	関西空港到着

第一部
調査企画

タイと日本　LGBTQ への意識比較調査

池田世安、加治瑞美、佐々木そら、中村玲奈

1. 調査目的

タイは日本と比べて本当に LGBTQ を受け入れている国なのかについて真偽を突き止める。

2. 背景

タイの観光政策では、LGBTQ を歓迎し開放的でフレンドリーな観光を提供すると謳っている。その一方で、タイ国内では LGBTQ に対し未だに根強い差別意識を持つ人も少なくないという記事がある。そこで本調査ではアンケート調査をもとに、タイは日本に比べ本当に LGBTQ を受け入れている国なのかを調査する。また、LGBTQ 後進国と呼ばれている日本と LGBTQ 先進国といわれているタイで、LGBTQ に対しどのような意識の差があるのかを考察する。

3. 調査方法

(1) インターネット上の文献やサイト、動画や SNS 等でタイ社会の LGBTQ について調べる。

(2) タイの高校生と日本の高校生に、同じ質問から成る『LGBTQ に関する意識調査アンケート』を google フォームにて実施。

①アンケート調査対象

ⅰ) カセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）の 2 年生(81 人)

ⅱ) 鳥取県立米子西高等学校の 2 年生(180 人)

②具体的な実施方法

ⅰ) サティカセ MP では、質問を英語に翻訳した google フォームを作成、使用し、回答用 QR コード(図 1)をプロジェクターに映し各自で読み取り回答してもらった。

ⅱ) 日本の高校では、班員の卒業校に協力を依頼し、TP10 期、LGBTQ 班の活動説明 PPT(図 2)を資料として配布し、LGBTQ の基本的な定義を示したうえで回答してもらった。

③アンケート内容

ⅰ) 日本/タイは LGBTQ を受け入れていると考えますか?

質問ⅰ)でそう思った理由(任意)

ⅱ) あなたの周りには LGBTQ の人がどのくらいいますか?

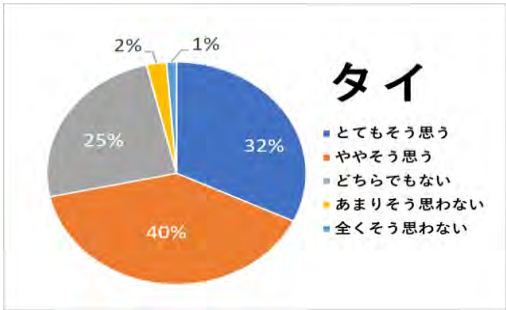
ⅲ) もしあなたが LGBTQ であり、それをカミングアウトするとしたら、あなたの友達や家族には打ち明けやすいですか?

図 1. サティカセ MP で使用した PPT

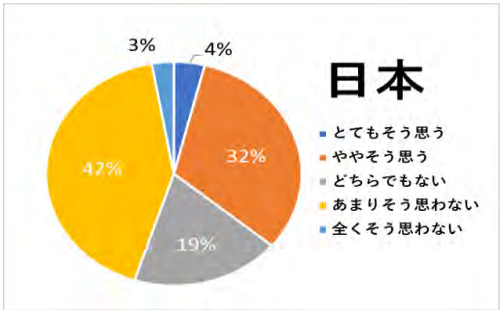
図 2. 日本の高校で使用した PPT

4. 調査結果

(1) あなたの国はLGBTQを受け入れていると考えますか?



グラフ 1.筆者作成



グラフ 2.筆者作成

理由(任意項目)　※一部抜粋

①とてもそう思う

タイ	LGBTQの人が多いから。	日本	ドラマやテレビの影響で、偏見はなくなったから。
	社会の変化、社会が受け入れている		決して悪いことでは無いと思うから。
	ニューノーマルが社会を変え、よりLGBTQ文化を許容している		特に社会にも問題はない。
	タイには多くのLGBTQの人がいて社会にほとんど問題はない		人それぞれの考えだと思うから。
	私の周りのLGBTQの人は差別されていないから		
	タイはLGBTQにかなりオープンで、LGBTQの人たちは普通に仕事をしている		
	同じ人間だから		
	タイの人々はより多様化していて、多くの若者はLGBTQを支持しており、他人の選択を尊敬しているから		
	タイにはたくさんのジェンダーがあり、タイの人々はいつもお互いに助け合っている		
	LGBTQの人が多いから。に関するソーシャルキャンペーンが多くあるから		
	LGBTQは普通、悪いことでは無いと考えているから		
	題材にしたBLドラマなどのコンテンツがある		
	誰もがどんなジェンダーも好きになる権利を持っているから。		

②ややそう思う

タイ	タイ人の多くは性別を気にしない	日本	周りに否定している人を見たことがないから。
	多くの人がLGBTQに賛成しているが、そうでない人もいるから		制服が変化しているから。
	30代から50代くらいまでは、新しい世代に同意しない人もいるが、タイの若者のほとんどはLGBTQに寛容で、私もそうだから		個々の意識は違えど、社会的には容認されていると感じるから。
	LGBTQを理解している人もいるが、そうでない人もいるから		テレビなど、LGBTQを扱った物事が多くなったように感じるから。
	現在のタイではLGBTQは増えていて、多くの人が受け入れているが、まだLGBTQを受け入れない保守的な人もいる。		法制度など受け入れていく雰囲気になってきたけど偏見が残っていると思うから。
	タイ人の新しい世代として、LGBTQが９０％以上受け入れられています。なぜならLGBTQはファッションなど、様々な面で私たちの視野を広げてくれるからです。		ドラマとかでそのような関係の（LGBTQの）ドラマがあっても受け入れられているから。

③どちらでもない

タイ	昔の人は受け入れなかったが、若者は受け入れている。	日本	同性婚が認められていないから。
	LGBTQの人々は普通の人間だから。		差別や偏見を持っている人が周りにいるから。
	LGBTQかどうかは気にしない		批判的な発言をする人はいるから
	LGBT＋を受け入れる家族もいるが、実際家族にLGBT＋の人がいるともう受け入れなくなる		

④あまりそう思わない

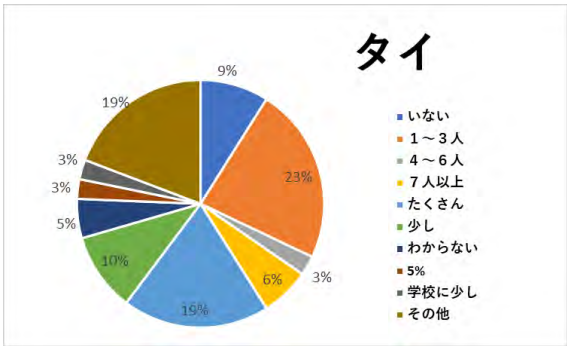
タイ	LGBTQ＋の人たちは差別されている。	日本	同性婚が認められていないから。
	LGBTQ＋の人間として、私はここタイで安心できないと考えているから。		今の世代よりも上の世代の方が認知がまだ低いなと感じることが多かったから。
			同性愛などの理解があまりないと思うから。
			LGBTQに配慮するようなルール、制度を作るだけで、意識的には受け入れられていないことが多い。
			カミングアウトしづらい雰囲気は少なからずあると思う。
			なんとなく
			まだ偏見や差別はあると思う。

⑤全くそう思わない

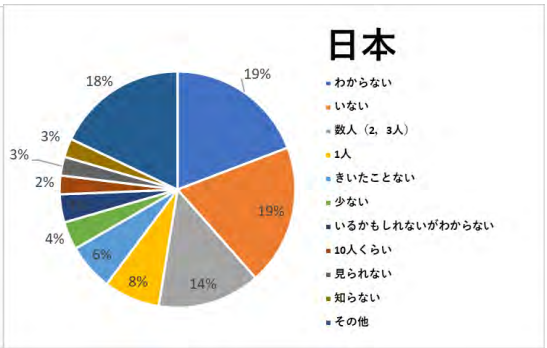
※ タイは０件

日本	日本はLGBTQの人の権利について認める法律が定められていないから。
	また、日本の政治的権力を持つ人々の中にはLGBTQを差別する人が多くいるから。

(2) あなたの周りにはLGBTQの人がどのくらいいますか?



グラフ 3.筆者作成



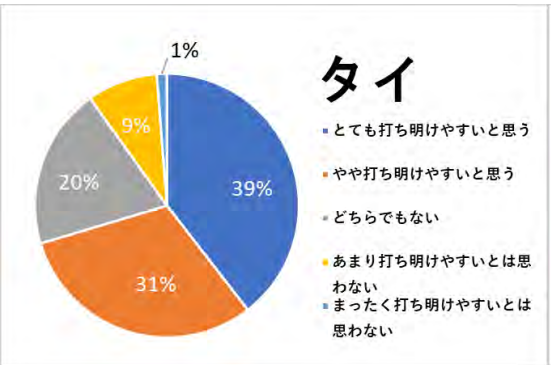
グラフ 4.筆者作成

「その他」の回答（一部抜粋）

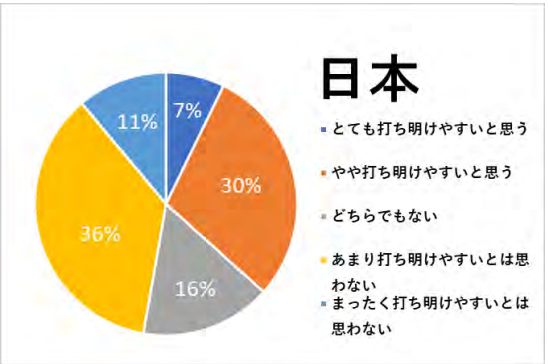
タイ	学校にはあまりいないが、今まで多くのLGBTQの人に会ったことがあり、わたしもその一人である。	日本	ネットで見たことがある。
	自分が知る限り、LGBTQ＋であるのは自分だけ。		仲のいい友達にいる。
	みんなLGBTQだけど自覚していないと思う。		15人に1人くらい
	LGBTQは私たちと同じ普通の人なので、誰がLGBTQなのか数えなかった。		友達の兄
			一定数知っているし気づいていない人もいると思う。

(3) もしあなたが LGBTQ であり、それをカミングアウトするとしたら、あなたの友達や家族には打ち明けやすいですか?

※(1)と違い、日本/タイではなく、回答者の周囲の環境がどうであるかを問う質問である。



グラフ 5.筆者作成



グラフ 6.筆者作成

5. 考察

タイと日本の高校 2 年生にアンケートを取ったところ、質問(1)のグラフを見るとタイの学生は 72%の学生が受け入れていると回答しており、一方で日本は 36%の学生が受け入れていると回答している。また質問(3)のグラフを見ると、タイの学生は 70%が受け入れていると回答しており、日本の学生は 37%が受け入れていると回答している。以上より、タイは日本に比べて本当に LGBTQ を受け入れているという結果になった。

質問(1)の理由について、すべての回答を見ると、『若い世代は LGBTQ への理解が深い人が多い』という回答がタイと日本で共通して多数みられた。このように共通の傾向がある一方、タイと日本の回答を比較すると回答者の LGBTQ に対する当事者意識の差を感じた。タイ側のアンケートでは、自分や周囲の人が LGBTQ に対して考えている意見を述べる回答が多くみられた。これは、タイには LGBTQ をカミングアウトしている人が日本に比べて多く、LGBTQ が身近な存在であるため当事者意識が生まれ、回答もその人の意見が強く表れたものになったと考えられる。一方、日本側のアンケートでは法律やドラマ、世論など、自分のことではなく世間のことに言及している回答が多くあった。アンケート結果の通り日本はいまだ LGBTQ が身近であるとは言えず、LGBTQ について接点を持てる場面が少ないため、実情が分からず回答も他人事のようになってしまっている。そこから、日本は LGBTQ を特別視してしまっているのではないかと考える。

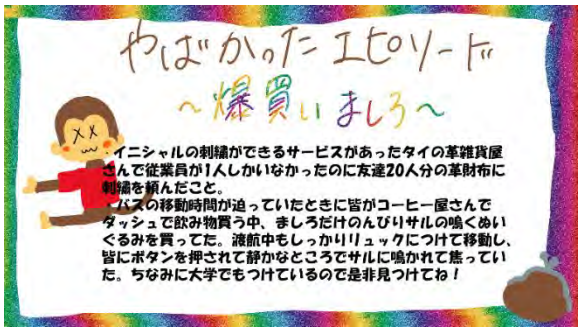
6. 終わりに

本調査では高校生へのアンケートを通じて、タイは日本に比べ本当にLGBTQを受け入れている国であることを明らかにした。質問(3)では、タイの学生の７割が『LGBTQをカミングアウトしやすい環境である』と回答した。一方、日本の学生の回答では４割に満たなかった。ここ数年で日本でもLGBTQなどの性自認に配慮した設備・制服が新しく導入されたり、BLドラマ・映画の数が増えたりするような変化はあった。それにも関わらず『カミングアウトしやすい』という回答が少なかったのは、いまだLGBTQを特別視するのが日本の多数派であることを示唆している。

では、日本はどのような取り組みを行えばタイのようにLGBTQを受け入れる社会へとなるのか。その答えとして私達は、日本はLGBTQについて学ぶ機会をさらに増やしていくべきだと考えた。LGBTQ当事者や性の多様性、またその課題について直接知る機会があればあるほど、LGBTQへの理解が深められる。特に、年齢が低いうちから学ぶことで、LGBTQを一つの性の在り方として当たり前に理解しやすくなる。そうしていくことで、日本でもカミングアウトしやすいLGBTQに理解のある環境を作ることができるのではないか。

また今後の課題としては、今回タイでアンケートを取った都市部の学生だけではなく、農村の学生や学生以外の人にアンケートを取ることでタイ国内でのLGBTQに対する意識の差が生じているのかを調査することが挙げられる。また、質問(1)の理由の中に「タイはLGBTQの人が生きづらい世の中だ。」と回答している人もいたので、タイのLGBTQに対する風当たりについてさらに深く調べる必要性もある。

～TP10期プチプチエピソード集～



よくわかるサティカセ MP の日本語教育

伊藤里莉、稲見克宥、手塚有海、宮本ましろ

1. 調査目的

サティカセ MP の日本語教育が最先端である理由を明らかにし、そこから日本の外国語教育の改善に生かすためのアイディアを模索すること。

2. 背景

サティカセ MP の日本語教育はタイ国内最先端だといわれており、これまで日系企業や日本語を使った職業に就く学生を多く輩出してきた。今回の調査では、サティカセ MP の日本語教育内の教育方法やカリキュラムの特徴を日本の外国語教育の実情と比較しながら分析する。そこから両者の教育方法がそれぞれどのような違いや効果を生み出しているのかを明らかにし、今後の外国語教育により実践的かつ効果的に生かしていける方法を考えていくことにした。

3. 先行研究

先行研究として、日本の英語教育を例に現状や問題点について調査した。以下、文部科学省「令和 3 年度「英語教育実施状況調査」概要」より、日本の英語教育の特徴をまとめたものである。

参考文献：https://www.mext.go.jp/content/20220516-mxt_kyoiku01-000022559_2.pdf（参照 2023-12-28）

(1) 日本における英語学習の主な目的

文部科学省の「英語教育をめぐる状況」によれば、社会のさまざまな面でグローバル化が急速に進み、物流や情報だけでなく人や資本も国境を越えて活発な移動が行われる中、国際的共通語である英語でコミュニケーションがとれるようになることが必要不可欠である、と語られている。しかしながら日本では、英語をコミュニケーションツールとして使いこなせる人は少数である。これは、高校受験や大学受験など、受験対策を重視した英語教育が原因と考えられている。それゆえ、「受験で使うから勉強する」という意識のもとで文法や単語学習、読み書きなどを学習する学生が多い現状にある。そのような教育環境の中では、実際の会話であまり使わないような堅い英文ばかりを覚えたり、受験が終わると英語を使わなくなってしまったりなど、言語をコミュニケーションツールとして使う本来の目的から徐々に外れていってしまうという問題点がある。

(2) 主な学習内容

日本での英語教育は、単語や文法の学習、和訳などが中心である。それらの学習の中では、いかに正確に理解できているかが重要視されている傾向にある。決して悪いことではないのだが、これによって、いちいち和訳を挟まず英語のまま頭に入れて自分の考えを英語でそのまま伝えられる「英語脳」と呼ばれる能力を育てる機会を失ってしまう。実際に文部科学省の記述の中でも、生徒のスピーキング能力が低い点や、授業計画の中に生徒にスピーキングを求める機会が少ないという点などが問題として挙げられている。

(3) 教員の英語力

海外渡航経験のある英語教員が少ない、あるいはあっても短いなどの要因により、そもそも英語力が高い教員が少ない現状もある。例えば、英検準 1 級レベルの英語力を持つ英語教員の数は、中学校ではまだ半数に満たないことが明らかになっている。そのため、学習者がなかなか高いレベルの英語に触れる機会が少ないことが問題点として挙げられている。

4. 調査結果・分析

サティカセ MP の特徴的な教育方法を調べるために、現地で日本語専攻クラスの先生４人にヒアリング調査を行った。いずれも日本語を母語とする日本人の先生である。以下、調査の中で明らかになったサティカセ MP の日本語教育の特徴をまとめたものになる。

(1)高等部のカリキュラムと授業の流れ

サティカセ MP では、学生は第二外国語として日本語か中国語を選択する。選択の理由は生徒によって様々であり、単に日本の文化が好きだから選択する生徒や、なんとなくで選ぶ生徒が多い。しかし中には、将来の安定や高収入を望める日本企業への就職を見越した両親の意向で、強制的に日本語を選択させられる生徒もいるそうだ。このような生徒は特に、日本語学習へのモチベーションに対する課題があることが多く、教員たちも問題視している。

【授業の基本的な流れ】

前回の授業の復習
↓
新しい語彙の習得
↓
例文を使った練習
↓
スピーキング

前提として、生徒によって学習方法の向き不向きや得意な分野は異なるため、教え方は生徒の個性を理解しながら臨機応変に対応することを意識している。
基本的な流れは左図の通りである。まず前回の復習から始まり、次に新しい語彙や文法を教えていく。その後は、新しく習得した語彙や文法を使って様々なバリエーションの例文を繰り返し練習したり、生徒自身が実際に例文を作ったりする。授業内では特にこの活動を重要視して時間をかけて行っている。習得したことを覚え実際に使えるようにするには、繰り返し練習して身体で覚えることが大切であるからだ。

【サティカセ MP 高校生のカリキュラム】

ファンダメンタルジャパニーズ	4 時間
Listening＆Speaking	1 時間
Reading＆Writing	1 時間
漢字練習	1 時間

＋

季節ごとに文化体験

高校生における 1 週間の日本語学習時間は 7 時間で、内容は左図の通りである。
1 週間のうち半数を費やしているサティカセ MP 独自の授業が、『ファンダメンタルジャパニーズ』だ。日本語の 4 技能を満遍なく学ぶクラスで、語彙を学んで文型を使えるようにするために、練習、会話、活動などを通して総合的に学習する。
しかしそれだけでは足りないため、漢字、リスニングとスピーキング、リーディングとライティング、それぞれに特化した授業を週に各 1 時間ずつ設けて補っている。

【日本語能力検定試験について】

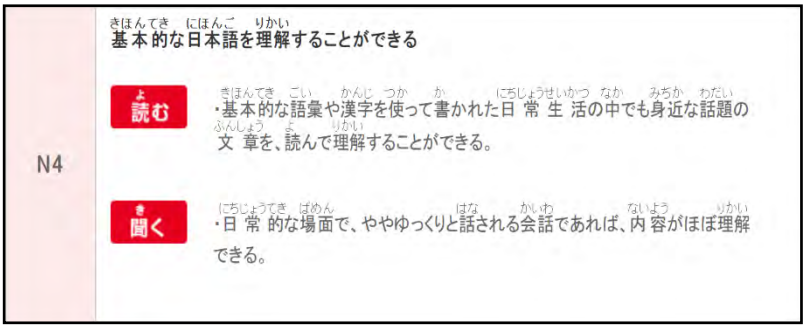


図 1 N4 認定の目安について
日本語能力試験 HP(https://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html)より抜粋

日本語を主専攻としている生徒は、1 年に 2 回バンコクで行われる日本語能力検定を必須で受ける。N1(最も難しい)～N5(最も易しい)の 5 段階に分かれているレベルのうち、N4 レベルを卒業までにとっておくべき最低のラインとしており、授業のレベルもこのレベルに準じて行っている。

(2)力を入れている日本語の技能

先行研究にて、日本の英語教育では単語や文法の学習、和訳に力を入れていることが分かった。一方のサティカセ MP では、教員は特にどのような技能の向上に力を入れているのか、またその理由やそのための授業内容を調査した。結果は以下の通りである。

	A 先生	B 先生	C 先生	D 先生
技能	スピーキング	スピーキング	文法	ライティング
理由・考え	・話すことが出来なければ書くことはできないと考えているため。 ※実際に、授業で話せない生徒は文字で書けない傾向が高いそうだ。	・教師がネイティブであることを活かすため。 ・声を出して練習することで覚えやすくなると考えるため。	・学習言語能力がまだ育っていない状態であるため。 ・日常生活レベルの会話は正しくできるようになってほしいため。	・学校である以上テストがあり、ライティングで成績を図るため力を入れざるを得ない。本心ではスピーキングに力を入れたいと思っている。
そのための授業内容	一授業 50 分の中で ・前日の復習 ・新しい語彙 ・文法練習 を何度も反復してとにかく話し続けさせるようにして練習する。	イラストのカードを使って個人やグループで発音練習をする。	正しい文型を覚えさせた後、学習した語彙を使って様々なバリエーションの文章を作る。	文法や単語、簡単な文章など、ライティングテストの内容に沿って練習させる。

(3)特徴的な教育方法

① 生徒の興味を引きだす学習方法

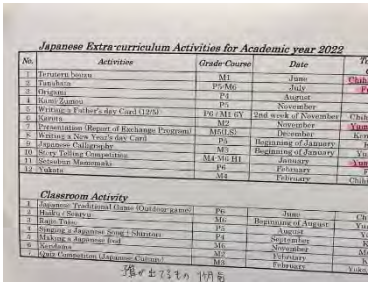
生徒に楽しんで日本語を学んでもらうことを重視しており、授業内容に様々な工夫を凝らしている。例として、フラッシュカードを使った学習方法を実践している。授業が始まる前に一度生徒を教室から出し、フラッシュカードの問題を答えることができた生徒から教室の中に入っていく、というようにゲーム感覚で学んでもらえるよう工夫をすることで、生徒の日本語学習に対する興味を引けるそうだ。

また、生徒にファンが多いという日本の漫画やアニメを授業内の話題やイラストなどに使用したり、日本の大学進学を考えている生徒にはそれに関連した話題を出すなど、生徒一人ひとりの興味関心があるものを上手く活用した工夫も取り入れている。

②日本文化や作法についての学習

単に日本語を学ぶだけではなく、日本文化や作法などを学ぶ授業がカリキュラムに含まれている。右図は、サティカセ MP が実際に行っている文化体験授業の一覧表だ。小学校から高校にかけて、お正月やお盆などの年中行事はもちろん、母の日や父の日に向けたメッセージカードづくりなど、人との交流に焦点を当てた様々な行事を体験してもらっている。

タイの大学受験における日本語の試験では、このような日本文化や行事などに対する知識を問う問題が出されるケースが一部ある。そのため教員は、適当なことを教えないように事前にしっかりと正しい情報を調べることを徹底しているそうだ。



Japanese Extra-curriculum Activities for Academic year 2022

No.	Activities	Grade/Course	Date	Ta
1	Tenjinsi basou	M1	June	[illegible]
2	Tanabata	P5/M6	July	Chi
3	Origami	P4	August	[illegible]
4	Kiri/Zumo	P5	November	
5	Writing a Father's day Card (12/8)	P6 / M1 6Y	2nd week of November	Chi
6	Kayra	M2	November	Yum
7	Presentation (Report of Exchange Program)	M6(LS)	December	Ken
8	Japanese Calligraphy	P5	Beginning of January	[illegible]
10	Story Telling Competition	M5	Beginning of January	Yu
11	Setsubun Mamemaki	M4 M6 H1	January	Yum
12	Yukata	P6	February	[illegible]
		M4	February	Chi

Classroom Activity

1	Japanese Traditional Game (Outdoor game)	P6	June	Ch
2	Bukiy (Sasayu	M6	Beginning of August	Yu
3	Rajio Taiso	P5	August	Y
4	Singing a Japanese Song (Shinzou)	P4	September	[illegible]
5	Making a Japanese Food	M6	November	[illegible]
6	Sendoku	M2	February	M
7	Quiz Competition (Japanese Culture)	M3	February	[illegible]

雑が出てきたもの 1月前

図 2 日本文化体験の授業 一覧表

② 幼少期からの言語学習

サティカセ MP では幼稚園生の時から他言語に触れる機会を設けている。言語学習の開始が遅くなると、他言語を学ぶことに抵抗が生まれるそうだ。そのため、幼少期から他言語に触れさせることによって、言語学習自体に慣れさせるという効果を生み出している。この効果は、中学生以降の言語の学習をより意欲的にし、それが英語以外の日本語やその他の言語の学習意欲にも繋がるそうだ。

(4)教育をする上で大切にしていること

最後に、サティカセ MP の生徒に日本語を教える中で大切にしていることは何か、代表の先生に伺った。先生方が最も意識していることは、何より生徒たちに日本語学習を楽しんでもらうということだった。先述の通り、日本の文化が好きだから学ぶ生徒がいる一方で、自分の意志ではなく両親の意向で半強制的に学ぶ生徒も一定数いるという現実がある。だからこそ、すべての生徒が日本語を楽しく積極的に学び、日本の文化に興味を持ったり、将来に生かせる何かを見つけたりしてほしいという思いで日々授業を行っている。ヒアリング調査の中では、真剣な時と遊ぶ時でメリハリをつけたり、ゲーム感覚で問題を出したり、生徒一人ひとりとしっかり向き合って成長を感じたときにはとにかくほめたりなど、生徒たちに日本語を楽しんでもらうための工夫がたくさんあることが分かった。

そのほかにも予想外の回答として、日本人が大切にしている礼儀やマナーを知ってもらうということがあった。そのため言葉遣いや挨拶、授業態度など日本語以外の面にも気を配ることを大切にしているそうだ。マナーや人に接する態度の在り方などは日本とタイで異なる部分がある。例えば何かを聞き返すとき、タイ人は普通「あ？」といい、その言葉が日本では失礼に当たるということを知らない生徒は多い。他にもアニメブームの影響か、日常で使わないような言葉を通常の日本語のように使ってしまう生徒もいる。将来もし、日本に観光に来たり仕事をしたりする際に彼らが困らないためにも、日本語そのもの以外の部分にも気を配って指導している。

5. 考察

サティカセ MP の日本語教育は、先行研究において明らかになった日本の英語教育の現状や課題と比べてたくさんの違いがあることが分かった。日本では受験や就職活動などの際に、英検や TOEIC などの資格の有無や、試験の成績などが重視される。そのため、これらの対策のための単語や文法、和訳などが学習の中心であり、好成績を残せば受験や就職活動などに有利に働く一方で、「実際に使うための言語」を学ぶ機会を減らしている現状がある。そのため、読み書きができても話すことが出来ず、せっかく取得した資格やスコアが役に立たないということが起こりうる。

一方サティカセ MP では、日本語ネイティブスピーカーの教員のもとスピーキングを重視してとにかく話せるようになるための練習をしたり、学習した語彙を使って自分で例文を書いてみたりなど、「実際に使うための言語」を学ぶ機会が多いことが分かった。実際にサティカセ MP の日本語専攻の生徒と交流する中では、習った日本語を使って話しかけてくれたり、日本について興味をもって質問をしてくれたりするなど、積極的に日本語を使おうとしている場面がたくさんあり印象に残っている。

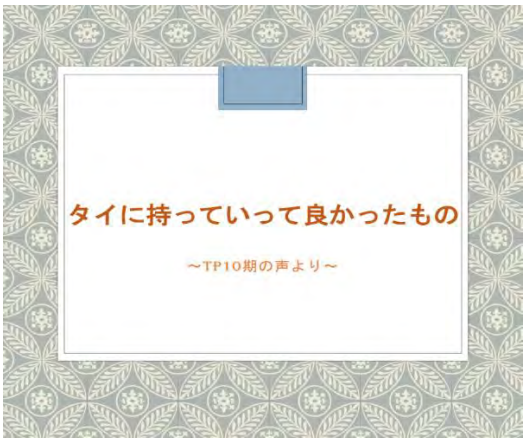
また日本の外国語教育にはあまり見られないものとして、日本の文化やマナーも学んでもらうという特徴が明らかになった。日本の文化を体験することで日本に興味を持ってくれる人が増える。また日本のマナーや習慣を理解することで、もし日本に訪れて日本人と交流することがあったときにお互いが心地よく過ごせるようになる。このように、日本語そのもの以外のことにも触れることで、言語学習の実用性を高められているのではないかと考える。

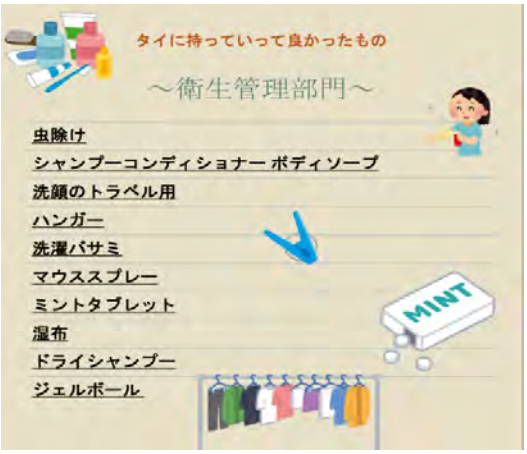
6. 終わりに

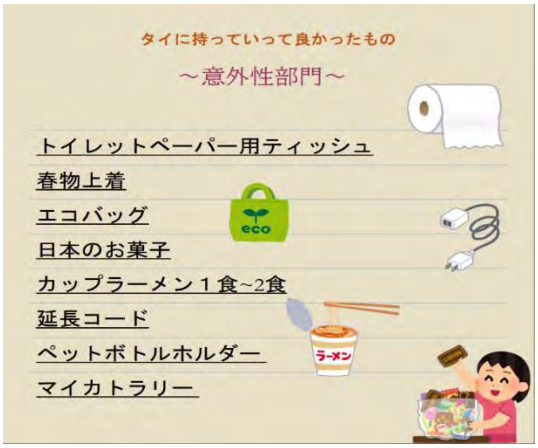
タイ国内最先端といわれているサティカセ MP 日本語教育について、その特徴や現状を日本の英語教育と比較しつつ調査してきた。言語を学ぶ目的は、受験や就職活動に生かせる資格が欲しい、実際に話せるようになりたい、海外旅行を楽しみたい、など人によって様々であり、それを実現するためのより良い学習方法はそれぞれ異なる。そのため自分の目的に合ったやり方で学習を行っていくことが望ましいのではないだろうか。日本の英語教育においては、その目的から、言語を実際の場面で使うための学習の機会が少ない。そのためもし受験や就職

活動以外の目的で言語を勉強したいと考えるならば、サティカセ MP の日本語教育のように、スピーキングや文化体験を通した学習など「言語を実際に使うための学習」をしていくべきではないだろうか。

～TP10 期コラム～







タイにおける日本アニメ文化から考える
現代の対日イメージ

植川智哉、佐竹結子、内藤未空、中里向日葵

1. 調査目的

日本に関する意識やイメージが、時代の変遷と共に変化しているのかを知るため。

2. 背景

人々の考え方や意識というものは時代と共に変化していく。日本に対する考え方や対日イメージも同じように変化しているのだろうか。対日班では、過去に外務省が行った対日世論調査を参考にして、現地の若者が抱えている現在の日本の印象について調査する。その結果を過去のデータと比較し、異なっている部分に焦点を当て、その変化はなぜ起こったのか、また、その背景について考察する。

3. 調査方法

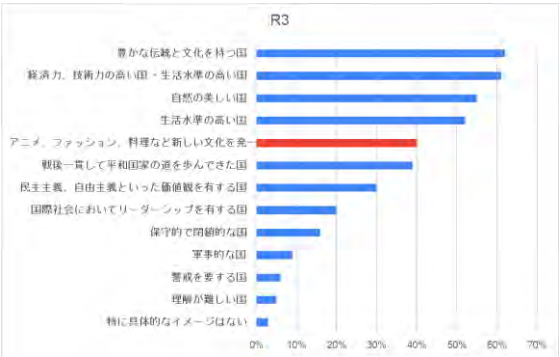
外務省の行っている「ASEAN における対日世論調査」を参考にして、Google フォームのアンケートを作成した。質問項目は、日本のイメージを客観的に知ることができるような内容のみに絞り、1～2 分程度で回答できるものとなった。また、アンケート内容を全てタイ語・日本語表記にしておくことで、現地の方に答えてもらいやすく、また帰国後に我々がデータの整理を行いやすいように工夫して作成した。さらに、若者のみに焦点を当てて調査を行いたかった為、年齢層の項目も用意した。主に、Maeon Wittayalai School やカセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）の学生に協力して頂き、アンケート調査を実施した。他にも、チェンマイのティンクパークやバンコクのカオサン通りで街頭調査を行った。

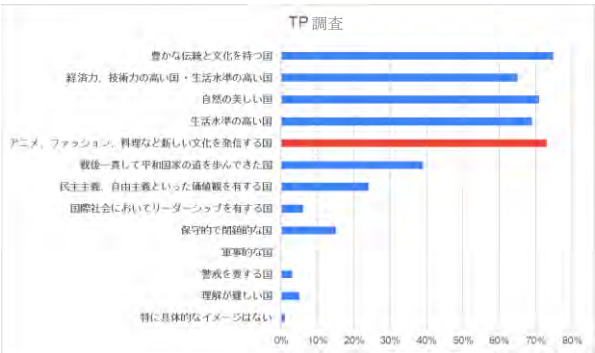
現地調査では、計 124 名に回答していただき、そのうち 10 代・20 代は計 110 人であった。今回の調査では若者の意見に焦点を当てる必要があるため、10 代・20 代の回答のみを使用する。

（外務省　対日世論調査　平成 19 年度：https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asean/yoron08.html
平成 25 年度:https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press23_000019.html
令和 3 年度 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/pr/yoron.html
（参照 2022-10-05）

4. 調査結果

質問 1. あなたにとって日本に対して抱いているイメージはどれですか？リストからあてはまるものを複数選択してください。（「ASEAN における対日世論調査」平成 19 年度、平成 25 年度、令和 3 年度より抜粋）

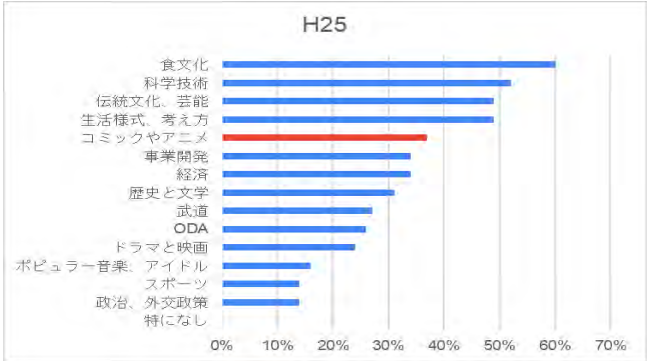


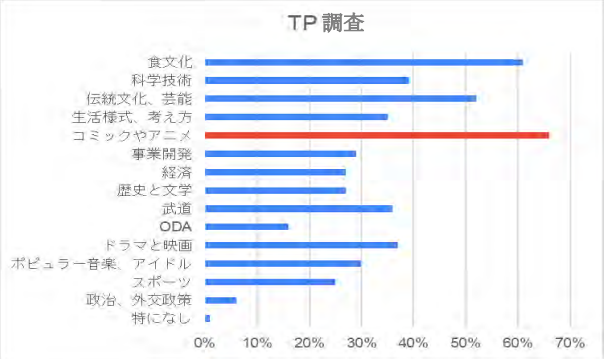


質問項目	数値	質問項目	数値
アニメ・ファッション・料理など新しい文化を発信する国	33%	国際社会において リーダーシップを有する国	-14%
生活水準の高い国	17%	軍事的な国	-9%
自然の美しい国	16%	民主主義、自由主義といった価値観を有する国	-6%
豊かな伝統と文化を持つ国	13%	警戒を要する国	-3%
経済力、技術力の高い国 ・生活水準の高い国	4%	特に具体的なイメージはない	-2%
戦後一貫して平和国家の道を歩んできた国	0%	保守的で閉鎖的な国	-1%
理解が難しい国	0%		

表 1：令和 3 年度調査結果からの増減

質問 2. 日本のどの分野についてもっと知りたいですか？リストからあてはまるものを複数選択してください。（「ASEAN における対日世論調査」平成 19 年度、平成 25 年度、令和 3 年度より抜粋）





質問項目	数値	質問項目	数値
コミックやアニメ	29%	生活様式、考え方	-14%
ポピュラー音楽、アイドル	14%	科学技術	-13%
ドラマと映画	13%	ODA	-10%
スポーツ	11%	政治、外交政策	-8%
武道	9%	経済	-7%
伝統文化	3%	事業開発	-5%
食文化	1%	歴史と文学	-4%
特になし	1%		

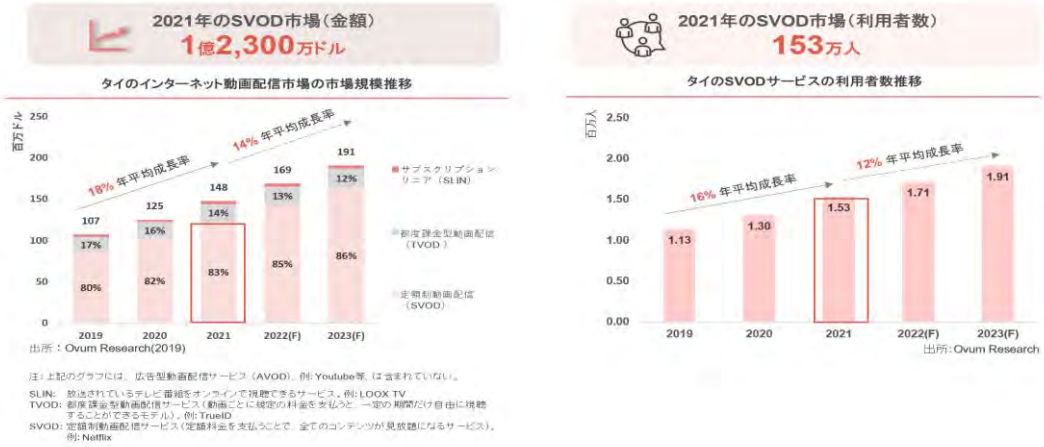
表 2：平成 25 年度調査結果からの増減

5. 考察

現地調査の結果、質問 1 では、日本に対して[アニメ、ファッション、料理など新しい文化を発信する国]というイメージを持つと答える人が、令和 3 年度と比較すると、33%増加していることがわかる。また、質問 2 では、日本の[コミックやアニメ]の分野に興味を持つ人が 29%増加している。限られた範囲での調査となったが、この調査から、日本のアニメや漫画に関するものに現地の若者が興味を示しており、日本に関する意識やイメージに影響を及ぼしていることがわかる。

こうした日本のアニメやコミックのイメージが現地の若者の間で増加している理由として、２つの理由が考えられる。

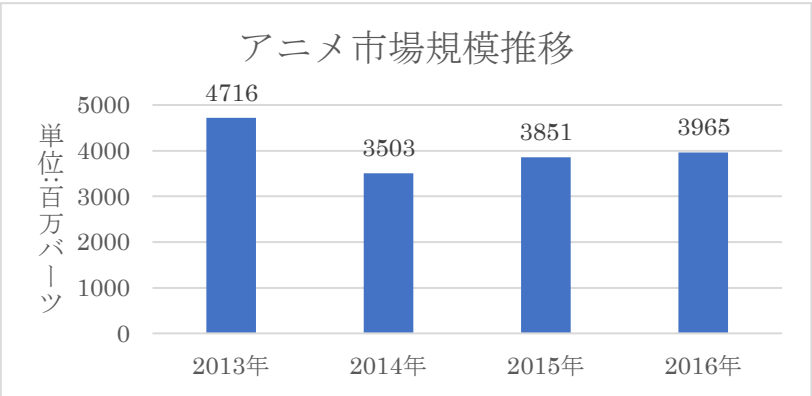
1 つ目は、タイでのインターネット動画配信市場が急成長しているからであると考える。2019 年から 2021 年にかけて、タイのインターネット動画配信市場は、金額、利用者数ともに二桁成長を遂げている。このうち定額制動画配信サービス（SVOD）は、市場全体の 80%以上のシェアを占め、動画配信サービスプロバイダーの最大の収入源となっている。その為、今後も SVOD 市場（利用者数）は、技術的進歩や新たなサービスプロバイダーの参入により、年平均成長率 12%（2021～2023 年）で拡大すると推定される。https://www.ycg-advisory.jp/learning/oversea_165/（参照 2023-05-18）



https://www.ycg-advisory.jp/learning/oversea_165/（参照 2023-05-18）

実際にタイでは 2013 年に「アニメブーム」が到来しており、2013 年にはアニメ市場規模が約 47 億バーツまで上昇している。翌 2014 年には約 35 億バーツまで落ち込んだものの、その後持ち直し、2016 年には約 40 億バーツとなっている。現在は、アジアコンテンツの人気が沸騰しており、特に日本のアニメコンテンツの視聴が増加しているため、この「アニメブーム」が再来しているといえるだろう。

https://www.jetro.go.jp/world/reports/2018/02/da86f2c0191edef8.html（参照 2023-05-18）



https://www.jetro.go.jp/world/reports/2018/02/da86f2c0191edef8.html（参照 2023-05-18）

2 つ目は、タイでは海外のコンテンツに対する著作権法が緩く、アニメや漫画の海賊版を身近に見ることので

きる環境下にあるからだと考えられる。タイでは、近年著作権で保護されたコンテンツを閲覧できるプラットフォームが数多く存在するにもかかわらず、依然として海賊版が蔓延している。タイでは著作権侵害規模（件数ベース）が全国ネットユーザ人口換算で年間約 22 億件発生しており、コンテンツ類型別で侵害規模が大きいのは、アニメ（約 6 億件）、コミック（約 4.5 億件）、ゲーム（4.5 億件）となっている。

kekka0.pdf (bunka.go.jp)（参照 2023-05-18）

その中でも特に、日本の漫画における海賊版流出は近年増加傾向にある。近年、タイでは紙の出版物としての海賊版は徐々に減少傾向にあるが、インターネット上に流出する海賊版の対策は進んでおらず、国外サーバーにある違法アップロードサイトへの法的権利を有していないこともあり、対抗措置を講ずることができないでいる。日本で発売される漫画雑誌はすぐ翻訳され、無料でアップロードされており、スキャンの精度（解像度の高さ）、翻訳の巧さ、公開までのスピードと、高い品質を誇っているのである。

しかし一方で、日本の漫画の売上は年々増加している。その理由として、中高生が使えるお金が増えていること、また粗悪な海賊版より正規品をコレクションする傾向が強くなっていること等が挙げられている。

以上の理由から、タイでは動画配信サービスの拡大と、日本のアニメやコミックを容易に鑑賞することのできる環境下であることが、日本のアニメやコミックのイメージ上昇に影響しているのではないだろうか。

6. おわりに

本調査では、外務省の行った「ASEAN における対日世論調査」を参考に、現代の若者間での対日イメージを比較し、日本のアニメがどのようにしてタイの若者に影響を及ぼしたのかについて検討した。その結果、タイでは動画配信サービスの拡大と、日本のアニメやコミックを容易に見ることのできる環境下であることが、対日イメージに寄与したのではないかと考えた。また、動画配信サービス企業は中国系企業が多いことから、日本アニメ以外に韓国ドラマや中国アニメといったコンテンツの人気も高まっていることが分かった。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大により在宅時間が増加し、こうした動画配信市場が拡大したことも、日本のアニメに触れる機会が増えた原因の 1 つになるのではないだろうか。もはやタイの若者にとって、アニメは日本のイメージそのものといっても過言ではないほど行き渡っている。今後の日本の課題としては、アニメや漫画の海賊版の流用をどのようにして抑制するかが重要になると考える。今回の調査により、私たちがより一層日本のアニメ文化について誇りを持ってよいと言えるような結果が表れて大変嬉しく思う。

↑調査協力の呼びかけに用いた画面

↑第 1 回合宿にて

タイでの焼き芋ブームから考える流行要素

中川和奏、長尾咲良、岡本珠理、廣川剛彦

1. 調査目的

タイで日本の焼き芋が流行していることから、タイの食の流行要素を考える。

2. 背景

タイでは今、日本食として焼き芋が流行していると言われている。私たちは、なぜ、日本食の中であまり代表的でない焼き芋が流行しているのかについて疑問を持った。このことから、タイで食べ物が流行するために必要な要素が何であるのかを調査したいと考えた。タイで今流行している食べ物を調べ、さらに焼き芋が流行している理由を調べることで、これらの食べ物の共通点からタイで流行するために必要な要素を見つけ出すことにした。

3. 調査方法

(1)事前調査

・文献

・インターネット

(2)現地調査

事前に作成した Google Form を用いて現地の方とカセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校(以下サティカセ MP)の高校生たちに調査を行った。アンケートは、現地の方用にタイ語のものと、サティカセ MP が英語教育に力を入れているという事前情報から、高校生用に英語のものを用意した。質問内容は、大きく 2 つに分けられる。1 つ目は、タイ国内の食の流行を調べる質問だ。2 つ目の質問は、焼き芋に関する質問だ。さらに、渡航中に訪れた場所でどのような食べ物が売られているのかを調査した。

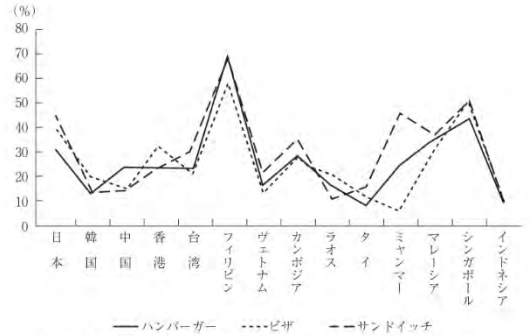
4. 調査結果

(1)事前調査

①様々な記事を読み、タイの流行に関する情報を集めた。

タイでは、年々日本食レストランが増加しており、特に 2018 年から 2019 年は地方にも多くの日本食レストランが進出したことが分かる。https://e-asean.net/28259 (参照 2022-12-28)

日本貿易振興機構（ジェトロ）バンコク事務所などによると、日本からタイへのサツマイモの輸出額は 2016 年から 20 年にかけて約 5 倍に伸びた。焼き芋は「暖かい地域では売れない」との見方が強かったが、日本の大手量販店「ドン・キホーテ」の運営会社が米ハワイやシンガポールで販売してヒットし、東南アジアで一気に広まったとされる。https://www.yomiuri.co.jp/economy/20211105-OYT1T50335/(参照 2022-12-28)

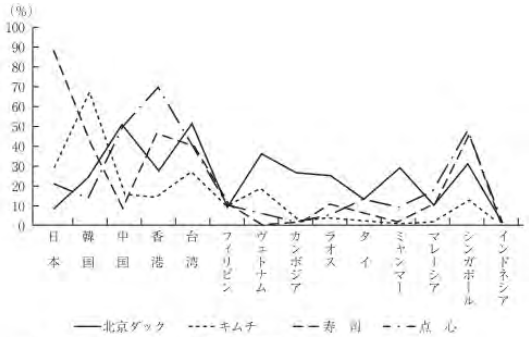


(注) 数値は「好きだ」と回答した者の割合を示す.

図1 アジアにおける欧米食への嗜好

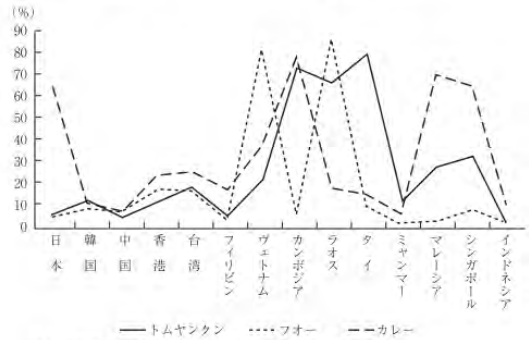
※「あなたは以下の食事の中で好んで食べるものはどれですか、当てはまるもの、すべて選んでください。」というアジア人に行ったアンケートの回答をまとめたグラフ

欧米が発祥であるハンバーガーやピザ、サンドイッチが好きな者の割合を国・地域別にみると、フィリピン、シンガポール、マレーシアといった地域で割合が高く、韓国、ラオス、タイ、インドネシアといった地域では割合が低くなっている。



(注) 数値は「好きだ」と回答した者の割合を示す.

図5 東アジアにおけるロ カル食への嗜好 (1)



(注) 数値は「好きだ」と回答した者の割合を示す.

図6 東アジアにおけるロ カル食への嗜好 (2)

前者はすべて欧米の旧植民地であることから、どの国の植民地であったかが食の好みにも大きく影響していることが分かる。

『北京ダックは中国大陸(50.7%)でなく台湾(51.6%)で、フォーはヴェトナム(80.5%)ではなくラオス(85.7%)で、それぞれ「好きで食べる」とする者の割合が多いものの、それ以外では、日本の寿司(86.5%)、韓国のキムチ(67.3%)、香港の中心(68.9%)、タイのトムヤムクン(78.9%)と、その料理の「出身地」で最も好まれている。しかも欧米食への嗜好と比べても、「好きで食べる」と回答した者の割合が高くなっていることから、伝統論的アプローチにとって都合のよい事実となっている。グローバリスト的視点と伝統論的視点は、東アジアではどちらも部分的に有効なのである。』

※https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsr/60/3/60_3_396/_pdf より引用。(参照 2022-11-27)

グラフと引用から、アジアの国の食事であるなら他のアジアの国でも確実に好まれるというわけではないということが分かる。ローカル食は、特にその食べ物が生まれた国のみで好まれる傾向があるということが分かる。

②事前調査から予想できること

タイのサツマイモの輸入量が 5 倍に伸びていることから、近年サツマイモの人気が高まっていることが予想できる。欧米・ヨーロッパの食べ物が受け入れられず、ローカル食を好む傾向にあるタイで、日本の飲食店が年々進出していることから、タイで日本食は欧米食と比べると受け入れられやすいことがわかる。

(1) アンケート結果

アンケートでは Google Form を用いて、以下の 9 つを質問した。

① あなたがバンコクで行きたい飲食店を教えてください。(複数回答可)

結果を見ると、日本の飲食チェーン店が複数個入っていた。回答数が 1 番多かった「Momo paradise」は、日本の企業が経営する飲食店だ。その次に回答が多かった「Nice 2 meat you」は、韓国料理の店だ。このことから、アジア料理の店がタイで注目されていることがわかる。

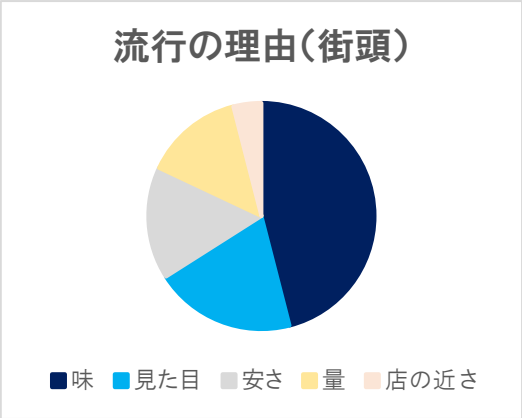
② ①で答えた中で食べたいメニューを教えてください。(複数回答可)

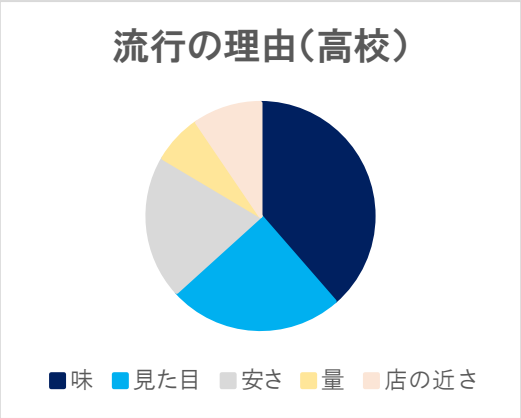
結果を見ると、寿司やラーメンなどといった日本の食べものが並ぶ中で、タピオカやケーキなどの甘いものの回答が目立った。

③ 今バンコクで流行っている食べ物といえばなんですか？ (複数回答可)

結果を見ると、Milk tea, Boba tea (タピオカ) という回答が多かった。②の結果同様に、甘いものが人気なことが分かる。

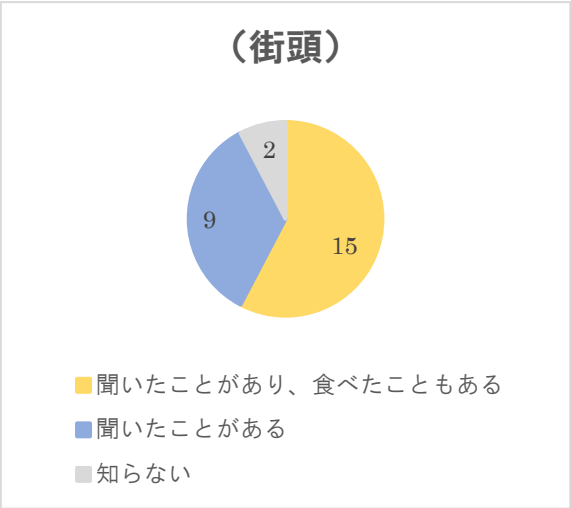
④ ③で流行っていると思う理由を教えてください。(複数回答可)

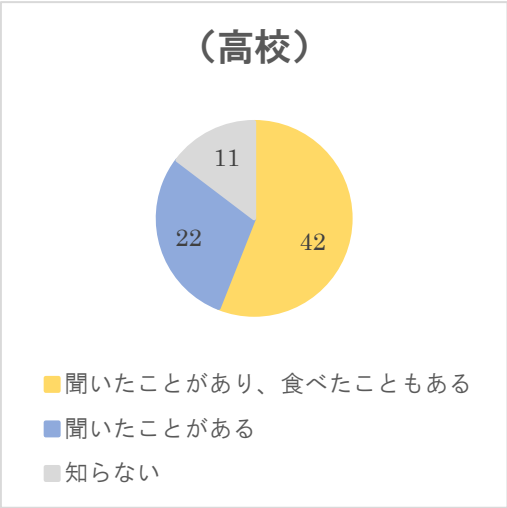




街頭調査も高校の調査も、「味」が流行の理由であると考える回答が一番多かった。

⑤ やきいもを知っていますか。(下に焼き芋の写真を添付)



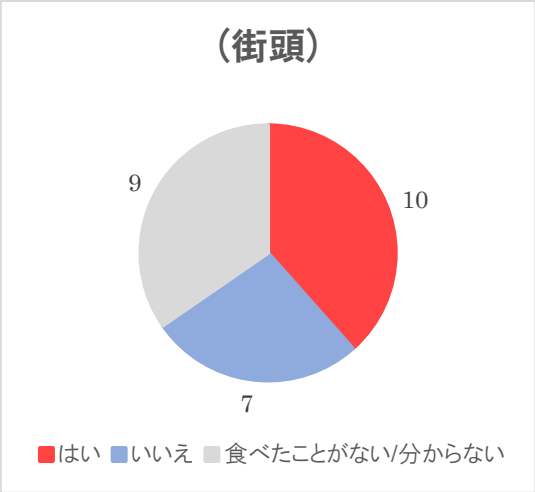


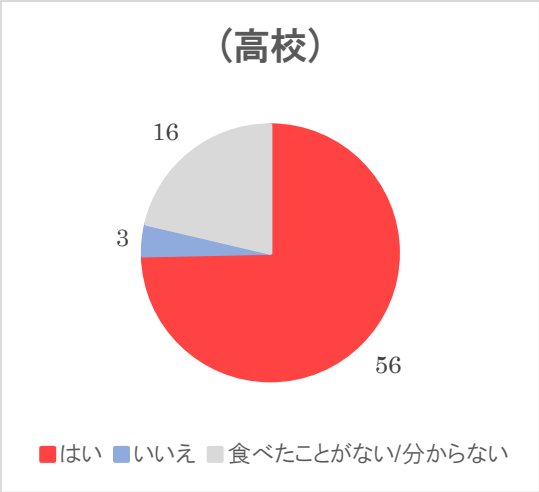
どちらの調査も『聞いたことがある』人が大半を占めていることから、タイにおいての焼き芋の認知度は十分であると言える。その中で、実際に食べたことがある人も過半数を占めているため、焼き芋はタイで人気の日本食である。

⑥ ⑤で聞いたことがある、食べたことがあると答えた人は、どこで知りましたか。(複数回答可)

どちらの調査も「SNS」「街で見かけた」という回答が多い結果となった。この結果から、SNS は焼き芋の認知度を高める役割を果たし、さらに街で売られている焼き芋を見かけることで「知らなかった食べ物」から「知っている食べ物」になり購買のハードルを下げているのではないかと考える。

⑦　焼き芋は好きですか。





街頭の調査と高校の調査の結果は大きく異なった。街頭の結果と比較すると、高校では『はい』の回答の割合がとても高いことが分かる。高校の調査では、③の質問の回答で特に甘いものが多かったことからも、若い世代には甘いものが人気であると予想できる。

⑧　⑦ではいと答えた人はそれはなぜですか。（複数回答可）

両回答とも「味」の回答が最も多く、「匂い」「食感」がその次に多い結果となった。

⑨　⑦でいいえと答えた人に対してそれはなぜですか。（複数回答可）

街頭と高校の回答が大きく異なった。高校は「値段が高いから」「見た目」「味」という結果になったのに対し、街頭は、「味」「食感」「値段が高いから」という結果となった。

5. 考察

アンケートの結果、タイでは食に「味」を求める人が多いことが分かった。そして、焼き芋のほかにミルクティーやタピオカ、クロッフルが流行っていることが分かった。これらは食の中ではスイーツに分類されるものであり、タイで流行するには「甘い」が 1 つ目のキーワードになるのではないだろうか。昔から砂糖はとても高価なものであった。しかし、近年の経済成長のおかげで砂糖を食べられるようになり、「甘い」の需要が高まっているのではないかと予想できる。そして、タピオカミルクティーもクロッフルも発祥はタイではなく、台湾と韓国だ。このことから、2 つ目のキーワードは「アジア発祥」なのではないかと考えた。文献調査の結果から、タイではハンバーガー・ピザ・サンドイッチなどの欧米・ヨーロッパが発祥の食べ物は好まれにくく、ローカルフードを好む傾向があった。これにより、味覚が比較的似ているアジアの料理が受け入れられているのではないかと思う。

流行の食べ物を聞く質問で、クロッフルと同じくらいの回答数だったのが Local food や meat だ。ほかに回答としてあったのは、Street food だ。以上より 3 つ目のキーワードは「屋台との親和性」だと思う。タイでは古くから屋台を含めた外食文化が発達し、床で調理をする文化により台所がない家も多い。早くから女性進出が盛んであったこと、華人の単身世帯が多かったことも外食文化が浸透した理由に挙げられる。このような理由からタイでは屋台の文化が古くより活発であり、根強い人気があるのではないか。ja（jst.go.jp）（参照 2023-07-07）

6. おわりに

「甘い」・「アジア発祥」・「屋台との親和性」、このタイでの流行において必要な 3 要素にちょうど当ては

まった「焼き芋」が、実際にタイで流行していることが判明した。街頭調査はバンコクだけで行ったものであり、調査結果がタイ全体に当てはまるものではない。実際、チェンマイでは焼き芋よりたこ焼きの方が流行しているという話を在住日本人から聞いた。しかし、バンコクの屋台で焼き芋が販売されているのを幾度となく見かけたこともあり、流行に必要な要素は地域によって特色があると考えた。私たちにとって意外な日本食が、世界中のどこかの地域である時に爆発的人気となる可能性がある。この調査を通じて、条件が揃えば異文化の地においてもブームが生まれるということを示唆している。

第二部
交流企画

水引結び縁結び

加治瑞美、佐々木そら、手塚有海、中川和奏

1. 概要

カセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）の学生に水引作りを体験してもらう。

2. 目的

日本を代表する伝統工芸品である水引は、祝儀袋や贈り物の包みなどに結ばれる飾り紐のことである。引けば引くほど強く結ばれることから、人と人、心と心を結びつけるという意味合いがある。

このように縁結びの意味が込められている水引の制作を通して、タイの高校生に日本文化や異文化交流などの経験にふれてもらい、 友好関係を築くことを目的としている。

図 3　水引・梅結び

3. 事前準備

(1)デザイン案作成…サティカセ MP の高校生たちに作ってもらうデザインを 4 つ考えた。制作時間や費用などを考慮して試作や変更を加えながら最終的なデザインを決定した。

(2)物品購入…参加生徒の人数が直前に分かったため、材料をどのくらい買えば良いのか分からず苦労した。多めに購入し、余った材料を練習用にしたり、フリーマーケットの商品にしたり、現地でお世話になった方々にお礼として渡すなどして対応した。水引紐をはじめとする材料の多くはオンラインショップで購入した。

(3)動画制作…本番でスムーズに制作できるように、水引を作っている手元を映した映像に英語の解説を付けた動画を製作した。高校生が分からないところを何度も確認できるだけでなく、メンバーにとっても作り方を覚えるのに役に立ったという声もあった。

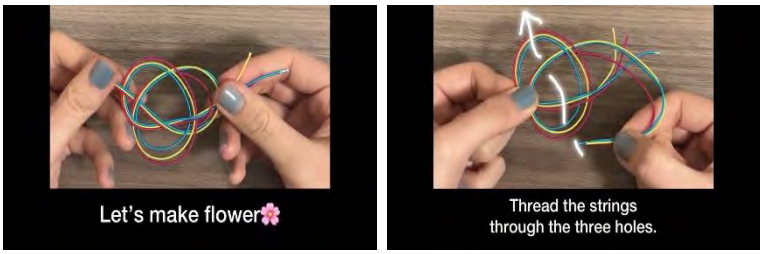


図 4　実際に制作した動画

(4)水引制作の練習…まず初めに水引班のメンバーが、動画サイトや本を利用したり互いに教えあったりなどしながら各自で作り方を覚えた。

第 2 回事前合宿では水引班 4 人を教える側、それ以外の TP メンバーを教えられる側に見立て、本番を想定して時間を図りながらシミュレーションを行った。その中で、想定していたプランのまま進めてしまうと時間が大幅に超えてしまうことが分かり、企画の進め方そのものの見直しや教え方の工夫などが課題として浮かび上がった。TP10 期が水引作りを覚え高校生たちに教えられるようにすることを目

図 5　水引班内での練習

図 6　合宿での練習

渡航の 2 か月ほど前から開始した。

標としていたので、動画などを利用して各自で練習するように定期的に促した。

(5)配布用キットの準備

現地で余計な時間をとらなくて良いように、1 人分の材料を全て 1 つの袋にまとめた配布用キットを準備し、当日そのまま渡せるようにした。渡航までに何度か企画のシミュレーションを行った結果、作品を 1 から作った場合、時間内に完成させることが非常に困難であることが分かり、4 つすべての水引作品に共通している「淡路結び」という初めの工程をあらかじめ水引班で作っておくことにした。このことは企画本番数日前に決定したので、滞在先のホテルで夜遅くまで作業することになってしまった。しかしこの準備をしたおかげで、当日は時間内に終わらせることができた。

4. 実施内容

最終的な水引のデザインは以下のとおりである。

①本の栞
（代表：手塚）

②淡路結び
アクセサリー
（代表：佐々木）

③梅結び
アクセサリーA
（代表：加治）

④梅結び
アクセサリーB
（代表：中川）

図 7　活動中の様子

水引班メンバーがそれぞれのチームの代表になり、各作品に対する高校生の希望人数によって、残りの TP10 期の人数を調節した。デザイン②③に関しては、ピアスかイヤリングどちらにするか希望をとった。タイの学生はピアスを開けている人が多いと予想して、ピアス金具を多めに用意していたが、実際はイヤリングを希望する生徒が多数を占め、部品が足りるか不安になる場面があった。材料は余裕をもって多めに準備することをおすすめする。また③は、水引の下に着ける飾りをビーズかタッセルか選択してもらった。

TP10 期 1 人に対して、サティカセ MP 生徒 2～3 人の小さいグループになり、コミュニケーションをとりながら活動を進めた。当日は 1 授業 50 分を活動時間として用意して頂いており、本来は水引作りから金具の取り付けまで完成させることを目標としていた。しかし、これより前の活動などで時間が大幅に押してしまい、実際は 30 分ほどしか時間をとることができなかった。そのため水引作りの部分だけを高校生に体験してもらい、水引班がそれを持ち帰ってホテルで金具の取り付けを行い、翌日に完成品を渡すように変更した。これによって活動を時間内に終わらせることができた。完成品を翌日渡すことはその場で決めたため、メンバーから生徒に直接渡す時間は確保されておらず、さらに登校時間も生徒によってバラバラだったため、結局先生から生徒に渡してもらうことになった。

図 7　完成品を渡している様子

5. 振り返り

【TP10 期からの感想】

良かった点	・自分が担当した生徒は日本語が苦手なようで動画を見せながら説明した。動画がなかったらかなり苦戦していたと思う。 ・サティカセ MP の生徒がすごく感動していた。みんなしっかり話を聞いてくれて一生懸命作ってくれたので嬉しかった。 ・日本について興味を持ってもらえるきっかけとなったのではと思う。 ・英語で伝えることが難しかったが、実演しながらなんとか最後まで教えることができた。 ・思い出を形に残すことができた。
反省点	・淡路結びまで作られている状態からのスタートだったがそれでも苦戦している生徒がおり、自分がたくさん手直ししてしまった。 ・当日まであまり練習が出来ず、前日に頑張って詰め込む形になってしまった。自分がもっと練習しておけばよかったと思った。 ・日本語専攻ではない学生や英語があまり通じない生徒がいたため、教えるのに苦労した。 ・水引作りそのものが難しく、どうしても水引班任せになってしまっていた気がする。 ・完成品を渡すために水引を入れた袋に個々人の名前を書いてもらっていたが、同じ名前の人がいたり文字が見えなかったりなどの問題があり、渡すのに手間取った。

【まとめ】反省点として、当日までに水引の作り方を完全には覚えられず混乱したり、水引班任せになってしまったりしたという声が多数上がった。渡航するまでの間、各自で練習するように何度か促してはいた。しかし、実際にできているか確認したり、分からない人に教える時間を設けたりする機会をほとんど作らなかったため、このような結果になってしまったと反省している。

6. 後輩へのアドバイス

交流企画に限ったことではないが、自分たちが準備してきたことを思い通りに実行できるケースはまれである。そのため本番にどのようなことがあっても柔軟に対応できるように、起こりうるトラブルや変更などをあらかじめ予想して、企画運営のあり方を何パターンか用意しておくと良いと思う。

また、企画に関して自分たちが何を達成したいのか、班内や TP 全体で共通の認識を持つことも大切といえる。

今回の企画では、水引をいかにきれいに作るかは重要視しておらず、日本の文化を知ってもらったり、互いに交流を深めて思い出を作ってもらったりしたいという思いをメンバー間に共有していた。そのようにすることで、不測の事態に陥ったときに優先すべきことが明確になったり、企画をより良くするためのアイディアが生まれたりと、活動が円滑に進むと思う。

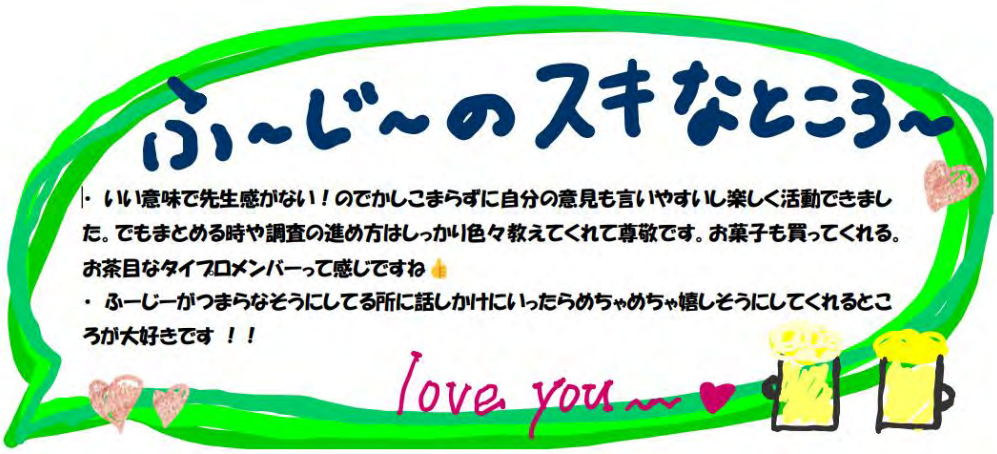
7. おわりに

図 8　全体写真

当日は時間が大幅に短縮されてしまったり、なかなか上手くできない高校生がいたりするなど多少のトラブルはあった。しかし、無事にすべて完成させて渡すことが出来たため、企画自体は上手く終えることができたといえる。これは、当日までに何度も試行錯誤を重ねて様々なパターンを用意していたことや、急な変更にもTP10 期が柔軟に対応してくれたからこそだと思っている。

企画中はチーム内でお互いによくコミュニケーションをとりながら、皆で楽しんで水引を制作してくれた。数本の紐が少しの工程で綺麗な形になることに目を輝かせて驚く学生や、上手くできないながらもチームで協力しながら一生懸命挑戦してくれていた学生の姿が印象的だった。文頭でも説明した通り、水引には人をつなぐ縁結びの意味合いが強く込められている。そんな水引が、企画に参加した高校生や TP10 期にとって、タイでの素敵な経験や出会いを思い出すきっかけになってくれていたら嬉しい。

～TP10 期エピソード集～



パフォーマンス

～言語の壁を越えてつながる輪～

佐竹結子、中里向日葵、中村玲奈、宮本ましろ

1. 概要

タイの学生に向けて、ダンスパフォーマンスやレクチャーを通じて交流を行う。使用曲は、日本の伝統的な踊りである『よさこい』に親しみやすい曲の『エビバディこいや』、キャッチーな振付が日本で流行した『ジャンボリミッキー』を踊った。オープニング要素として、タイの web ドラマのエンディング曲『แคร่ไกลไกล (Kae Glai Glai)(訳:貴方を遠くで思っている)』も披露した。

2. 目的

(1) 『エビバディこいや』でよさこいパフォーマンスに触れてもらい、日本の伝統的な踊りであるよさこいについて知ってもらうため。

(2) 気軽に踊りを真似やすい『ジャンボリミッキー』を踊って共に一体感を感じ、音楽で国境を超えるため。

3. 事前準備

時期	実施内容
第 1 回事前合宿	候補曲、実施方法の列挙
11 月下旬	TP10 期の投票で曲を決定
12 月上旬	パフォーマンス班が踊っている動画を撮影し、TP10 期が随時振付を確認できるよう LINE のノートで共有
12 月中旬	授業後や放課後、空きコマ等の時間で日程調整を行い、参加できるメンバーが集まり 10 回程度のダンス練習
1 月下旬の授業後	全員揃っての練習、確認
第 2 回事前合宿	披露する全ての曲の振付、役割、流れの最終確認
本番前 MT	当日の動きの最終確認

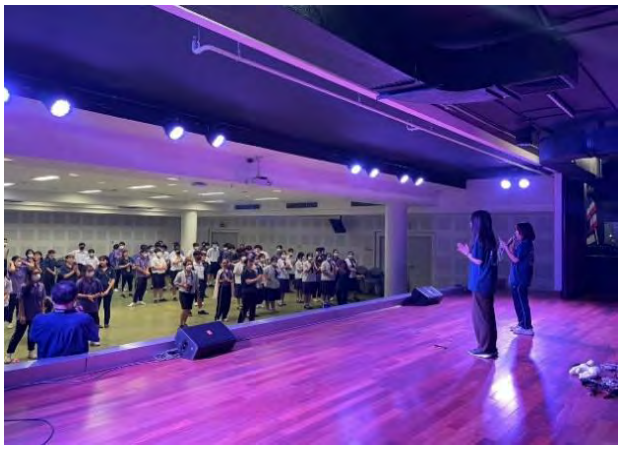
上記のような流れで本番に向けて準備を整えた。ダンス練習では、パフォーマンス班が前で踊って振付を教え、全員が大まかな振付を覚え次第、フォーメーションを作ってダンスを完成させた。練習は、経済棟の空き教室、シンボルゾーン等で行った。パフォーマンスで使用する音源は編集し、USB に入れてタイに持参した。

4. 実施内容

(1)農村(全体の実施時間:30 分程度)

タイ web ドラマのエンディング、エビバディこいや(鳴子を使用)、ジャンボリミッキー(カチューシャを使用)の順に 3 曲でダンスを披露した。エビバディこいやを踊る前は、PPT でよさこいの説明をクイズを交えながら行い、パフォーマンスの途中にタイ語で「ありがとう」と書いた画用紙を掲げた。

(2)カセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校(以下サティカセ MP)(全体実施時間：20 分程度)
最初にタイの web ドラマのエンディングを披露し、生徒たちの興味を引いた。その後、ジャンボリミッキーをレクチャー実施曲として扱い、レクチャー実施個所のみを 1 度軽く踊って生徒に見せた。舞台で見本を見せながら進行するメンバーをパフォーマンス班から 2 人出し、それ以外のメンバーは舞台から降りて生徒に直接レクチャーする形にした。最後は、TP10 期と生徒全員でジャンボリミッキーを踊った。(TP メンバーは舞台でクラッカー、カチューシャを使用)



5. 成果

どちらの学校でもパフォーマンスを通じて盛り上がり、生徒が笑顔で楽しんで踊ってくれて嬉しかった。Maeon Wittayalai School ではタイの伝統的なパフォーマンスを披露してもらう時間もあったが、言語や文化の違いから、それぞれのパフォーマンスにも違いがあった。その中でパフォーマンスを成功させるには、互いに受け入れあう雰囲気づくりが必要だと思った。当日の急な変更や、現地の先生方や EDF とうまく情報共有が出来ず、苦労したこともあったが、練習や準備を積み重ねてきたからこそ、メンバーと協力して臨機応変に対応できた。

目的の(1)については、PPT を用いてよさこいに関するクイズを出題し、踊りの際に用いた鳴子も紹介できた。生徒がよさこいをどこまで理解し、興味を持ってくれたのかまでは共有できなかったが、クイズやパフォーマンスを通して目的を達成できたと言える。目的の(2)については、ダンスレクチャーを行ったことでキャッチーな振付だけでも共に踊ることができ、一体感が生まれたと感じた。よってこの目的についても達成できたと考える。

パフォーマンスを通じて、踊りやコミュニケーションを純粋に楽しむことができ、音楽は世界共通だと感じた。

6. 反省

(1)準備段階

ダンスを披露する曲を決めてから、ダンス練習に移行するまでに少し時間がかかってしまったのが良くなかった。ダンス練習に関しては、パフォーマンス班が示した予定と合うメンバーが固定されてしまい、個々人で完成度に差が出る原因になってしまった。

(2)渡航中

① Maeon Wittayalai School

現地に着いてからも、振付に自信がないメンバーにはパフォーマンス班がマンツーマンで教えていたが、全員で確認する時間は確保出来なかった。

パフォーマンス本番はディナーショーの中で行われた。これにより、予定していた形式でのクイズやダンスレクチャーがその場の雰囲気にそぐわず、パフォーマンス内容の一部を急遽変更せざるを得なくなった。これは現地の先生方やEDFとの打ち合わせが上手くいかなかったこと、またパフォーマンスを行う環境の詳細を正確に把握できなかったことが原因と考えられる。タイのパフォーマンスやディナーショーとの親和性を考えると、パフォーマンス内容をダンスに絞り、より日本らしさが伝わるもの(伝統芸能など)にした方が良かったのかもしれない。また、タイの生徒は、パフォーマンスの際に伝統衣装を着ていたため、TP10期も日本らしさが全面的に伝わるような、視覚的により華やかな衣装を準備した方が良かった。

しかし、TP11期以降は同じ学校に行くかどうかは不明瞭であり、ディナーショーの中でパフォーマンスが行われるとは限らないので、あくまでも参考程度にしてほしい。

② サティカセMP

企画の中で、生徒と関わり切れなかったと感じるメンバーがいた。レクチャーの時に、もっと積極的にコミュニケーションを取ることができれば、より生徒と一緒に楽しめたと思う。他には、ダンスを覚え続けることが難しかったという反省が挙がった。日程的に、活動の後半の方にパフォーマンスが組み込まれており、振付を忘れてしまうメンバーもいた。それに加えて、準備した音響の音が小さく、自信を持って踊れなかったメンバーが多かった。ダンスを全力で楽しめていない生徒を作ってしまったのも改善の余地がある。

7. 後輩へのアドバイス

(1)Maeon Wittayalai Schoolについて

・渡航前にメンバー全員が全体の流れを頭に入れておく、または現地で流れのみを確認する時間を取ると良い。
・パソコンやPPT、音響の確認をする際は、現地の先生方と念入りにコミュニケーションをとる必要がある。
・パフォーマンスの時間になるまでパフォーマンスに何人の生徒が参加してくれるのかわからないため、生徒の人数を気にしないでできる企画や、簡潔な内容の企画を考えると成功しやすいと思われる。

(2)サティカセMPについて

・時間がタイトなので、生徒と積極的に関わることを意識する。
・振付が不安なメンバーと、ホテルで練習をすると良い。
・音源準備を行う際には、元の音量を大きめにしてUSBに取り込むべき。
・音源は前日に取り込んでもらうとよい。
・周りをよく見て生徒を巻き込みながら楽しむべき。
・パフォーマンス班は、日本人の先生と話す機会が多くなるので、他の企画の段取りについても話される場合がある。メモをしっかり残してメンバーに伝達できるといいと思う。
・日本人の先生と念入りに打ち合わせをする時間がある。パフォーマンスで使用する場所も事前に確認させてもらえるため、そこで本番の流れをイメージすると良い。

(3)共通して言えること

・披露する曲が決まったら、なるべく早く振付を確定させると良い。
・どのようにダンス練習を行えばより完成度を高められるか、TP11期以降は工夫するとよい。
・本番の実施パターンをいくつか考えておくと良い。
・思ったようにいかなくても、準備してきたことは、機転を利かせて最大限行うと後悔が残らない。
・物品の購入は早い段階から計画的に行うと良い。

・企画書を早く仕上げることで、自分たちの準備に余裕を持たせることができる。
・音源については、TA に曲をかけてもらうことができる。
・本番は、多くの企画を実施する中で変更が発生する。メンバーへの伝達は LINE ではなく、直接行った方が確実で速い。
・体力的に疲れてくるかもしれないが、自分たちが笑顔でパフォーマンスすれば、生徒も自然と笑顔になり、楽しいひと時を作ることができる。

交流企画「Play! Play! Play! 」

伊藤里莉、池田世安、岡本珠理、廣川剛彦

1.　概要

タイの学生と TP10 期が文化的な交流をスポーツを通して行う。身体を動かして遊ぶことで楽しみながら日本の遊びを身を持って知ってもらう。国際交流を行う上で、タイの学生だけでなく TP10 期もわかりやすく楽しめる遊びを考えた。

みかん鬼→サムライ鬼→ドッヂビーの 3 種類のレクリエーションをする。また、ドッヂビー優勝チームに賞品（カルパス、かば焼きさん太郎を 1 人 1 個ずつ）を贈呈する。日本のお菓子を贈呈することで日本の食文化とも触れ合える。

2.　目標

(1)　タイの学生に日本の遊びで思いきり体を動かして楽しんでもらう。

(2)　TP10 期もタイの学生と一緒に楽しみ、国を超えた友情、交流を深める。

3.　準備

(1) 渡航前

①種目の決定…みかん鬼→サムライ鬼→ドッヂビーの 3 種類のレクリエーションをする。ドッヂビーの順番を最後にした理由としては、チーム戦で景品ありの競技なので大きく盛り上がり、締めに相応しいと考えたためである。また、ドッジビーを最後にすることで、残り時間を見て競技時間の調節がしやすいというメリットもあると考えた。

②種目の詳細を決定

③準備物の購入

④現地では制作する時間がないと予想し、
購入したすずらんテープでチーム分けの目印に使うたすきを制作。

⑤第 2 回合宿で藤山先生、TA、TP10 期にスケジュールとルールの確認をしてもらう。

(2) 渡航中

①賞品であるお菓子の袋詰め

②班員以外への動線確認･･･企画日の前日に、TP10 期に企画の流れを再度説明し、
競技ごとの理想の動き方を共有した。

図 1 企画前の打ち合わせの様子

4. 実施内容

(1) 開会式 (13 分)　司会：廣川　その他補助：池田、伊藤、岡本

①イベント名発表

②スケジュール説明

③司会によるはじめのことば

④TP10 期のメンバー紹介（名前のみ）

⑤それぞれのチームにたすきを配布 A：白　B：青　C：緑 D：紫

たすきはそれぞれのチームメンバーをわかりやすくすることを目的としたもので、すずらんテープで製作した。このチーム分けはドッヂビーのときに主に使われるが、サムライ鬼の2回目では、Dチームも鬼に加わるので、それをわかりやすくするためでもあった。また、事前に依頼してA～Dのチームを形成した。

⑥準備体操（ラジオ体操）･･･日本語では伝わらない可能性を考え、タイ語ver.のラジオ音源を使用した。

(2)みかん鬼

	役割分担	時間配分
みかん鬼	タイムキーパー：交流企画メンバー（4人） 鬼：TP10期（16人）	ルール説明 10分 競技時間 10分 合計 20分

【概要】

バナナ鬼をアレンジしたものである。バナナをみかんに変えたのは、和歌山で有名なみかんへの興味を持ってもらうことを目的とするからだ。捕まった人はみかんのように両手を頭の上で合わせる。その後、味方にタッチしてもらえたら片手を下ろす。もう1回タッチしてもらうともう片方の手を下ろすことができ、また逃げられるようになる。

(3) サムライ鬼

	役割分担	時間配分
サムライ鬼	タイムキーパー：交流企画メンバー（4人） サムライ：1回目…TP10期全員（16人） 2回目…Dチーム	ルール説明 10分 競技時間 7分×2回 合計 24分

【概要】

ケイドロをアレンジしたものである。警察をサムライ、ドロボウを鬼として行い、サムライは鬼を捕まえるとき「成敗！」と叫ぶ。

企画開始時点では、牢屋(捕まった鬼が留まる場所)を会場の端に設置していたが、その付近にだけ人数が集まってしまった。その状況を危険だと判断し、2戦目からは牢屋を会場の真ん中に設置した。

企画途中から体力切れの人が出てきたため、競技時間をもう少し短めにしても良かったかもしれない。

(4) ドッヂビー

	役割分担	時間配分
ドッヂビー	タイムキーパー・審判：コート①（岡本・池田） コート②（廣川・伊藤）	ルール説明 15分 競技時間 6分×3回 合計 33分

【概要】

4 チーム(A～D) で、総当たり戦を 3 試合行った。グループはサムライ鬼と同じチームで行った。また、TP10 期のチーム分けと審判・タイムキーパーのコート分けも時間短縮のため事前の授業で LINE のくじ引きツールで行った。ドッヂビーはドッヂボールと同じルールだが、ボールの代わりにフリスビーを使うものである。ただ、今回は時間の制限や言語の違いでスムーズに進行できるかがわからなかったので独自のルールを付け加えた。フリスビーを始めから 2 つ使用することで試合を 6 分以内に終わらせ、設けられていた時間を過ぎないようにした。外野の人が内野の人を当てたら内野に戻ることができるというシンプルなルールに設定し、始めの外野は TP10 期メンバーに指定した。日本なら「顔面に当てるとアウト」や「外野からの横あて禁止」というルールがあるが、沢山ルールがあるとややこしくさせるかもしれないという観点から、どちらもアウトにしないことにした。また、時間に制限があったため、同率 1 位のチームが現れても勝者決定戦を行わず、じゃんけんで勝負をつけることにした。

【対戦表】

	コート①	コート②
1 試合目	A×B	C×D
2 試合目	A×C	B×D
3 試合目	A×D	B×C

図２　全体写真

(5) 閉会式　(10 分)

①結果発表

②賞品贈呈

ドッヂビー優勝チームに(カルパス、かば焼きさん太郎を 1 人 1 個ずつ)を贈呈する

5. 結果

(1)　『タイの学生に日本の遊びで思いっきり体を動かして楽しんでもらう。』　について

みかん鬼、さむらい鬼ともに、日本の要素が入った鬼ごっこをすることで日本の文化に触れながら楽しく遊べたので達成したと言える。現地生が知らないドッヂビーを教えて体を動かし、「楽しかった」「また学校で遊びたい」と言ってもらえた。また、フリスビーを学校に寄贈し、タイの学生がそのフリスビーでこの企画以外の時間でも遊んでいたため建設的な文化交流が行われたと言える。

(2)　『TP10 期メンバーもタイの学生と一緒に楽しみ国を超えた友情、交流を深める。』　について

まずみかん鬼を行い、全員で思いっきり体を動かすことによって、TP10 期メンバー、タイの学生の両方の緊張をほぐすことができた。次のサムライ鬼では、チームプレイの要素がたくさんあり、国籍や言語など関係なく互いに楽しむことができた。最後のドッジビーに入る頃には、全員がスポーツを純粋に楽しむことができ仲良くなっていたため、この目標は達成できたと考える。

図３　ドッジビー前の円陣の様子

図４　休憩時間の戯れ

6. 振り返り

(1)良かった点

本来は屋外で企画を行う予定であった。天候により場所などの変更点は生じたが、どんな場所になってもいいように準備（コートを白線でなく、コーンで作るなど）を行っていたため、臨機応変に対応することができた。ドッヂビーもドッジボールもルールを知らないということは予想外であったが、通訳のミントさんを通じ、また他の TP10 期メンバーと協力してデモンストレーションをして見せることで遊び方をしっかりと伝えられ楽しく遊べたのがよかった。

(2)改善点

室内で企画を行う場合、テニスコート 3 つ分程のスペースしか無く、周りには机やその他備品などが置いてあるので、更に少し狭くなる。それらや人との接触の可能性などを含めた安全面をもっと考慮すべきだった。また、TP10 期もそうだが、競技時間が長く、体力が切れてしまう人たちが多かった。そのため、競技実施時間を短くしたり休憩時間を長くしたりする方が良かった。更に、2 月でもタイは暑く、TP10 期はその暑さに慣れていない状況での企画だったので、それを考えたうえでスケジュールや遊ぶ内容を考えるべきであった。

7. アドバイス

・Maeon Wittayalai School の場合、企画実施場所が、ピロティ形式の体育館であったため、雨天の場合でもドッジボールコート 2 つ分くらいのスペースは確保できる。

・今回、ドッジボールというスポーツがタイにはないことは想定外であった。私達も事前に調べており、ドッジボールがタイ含め全世界に存在すると確認できた。しかし Maeon Wittayalai School では知られていない競技であったため、その競技の文化が浸透していない場合のルール説明文は考えておいた方が安心である。

・雨によりグラウンドを使用しなかったため、グラウンドの詳細は分からないが、芝生で凸凹のあるように見えた。また、今回のように屋内を利用する可能性もあるので、石灰ラインでコートなどを引くより、ディスクコーンなどポイントに目印になるものを準備すべきである。

・BGM は盛り上げのため、用意しておくと良い。その際には、音響利用可能かの確認は絶対に必要である。

8. おわりに

スポーツを通じての異文化交流を双方が楽しめてよかった。今回の企画は自分たちだけでは成功を収めることはできなかった。藤山先生や TA、通訳のミントさん、そして積極的に企画に参加し受け入れてくれた Maeon Wittayalai School の人達や EDF の方々に感謝する。体を動かすことで国籍や言語を超えてつながったこの体験を自信にしてこれからも他の国の人たちと交流する際に活かしていきたい。また、これからの TP でも今回のような貴重な経験ができる企画をして欲しいと思う。国籍や言語が違っても友達ができるこの感動を、沢山の人に伝えていきたい。

ニッポン体験交流

植川智哉、内藤未空、長尾咲良、稲見克宥

1. 概要

Maeon Wittayalai School にて、日本の遊びを縁日形式で計 6 ブースを回りながら体験してもらう。各ブースでシールを配布しすべて回ると 1 つのイラストが完成するスタンプラリーも同時に行った。

2. 目的

タイの生徒たちに日本の伝統的な文化や現代の遊びなどを体験してもらいながら、TP10 期と生徒の仲を深める。

3. 事前準備

企画に必要な物品は購入リストに基づき購入。スタンプラリーの用紙や看板用の画像、景品で配布する折り紙は TP10 期で事前に作成し現地に持参した。各ブースで使うルール説明用の PPT は事前に EDF にタイ語訳を依頼。

4. 実施内容

(1)役割分担

各ブースに TP10 期を 2 人ずつ(シャボン玉と生八つ橋は 3 人ずつ)配置し、残りの 2 人は司会と全体を見る役割にした。藤山先生や TA にも随時サポートしてもらった。

(2)運営方法

あらかじめ生徒を 6 グループに分け日本や和歌山に関するイラストの名札を配布し、各班に 1 つスタンプラリー用紙を渡した。各ブース 12 分ずつ行い、終了後反時計回りに移動した。移動をスムーズに行えるようブースに看板を用意し、1 回目は自分の名札と同じイラストの看板を掲げているブースに移動してもらった。2 回目以降はブース終了後各担当メンバーが、次のブースの看板イラストを、スタンプラリーの用紙を使いながら指示して移動してもらった。

すべてのブースを回り、スタンプラリーが完成したら最後のブースで景品の折り紙を贈呈した。
ブースでは日本の雰囲気を楽しんでもらうべく、
日本の小学校などで遊ばれているものを選んだ。
各ブースの詳細は以下の通りである。

(3)ブースの内容

	シャボン玉	新聞紙じゃんけん
内容	材料を混ぜて担当者たちで割れにくいシャボン液を作る。 完成したら実際に遊んでもらう。	新聞紙に乗った状態でジャンケンをしてもらい、負けたほうが新聞紙を半分に折る。半分ずつ小さくしていき、乗れなくなった方の負け。 もし 3、4 人で行う場合は 1 回のジャンケンで 2 人が負けたら 2 人が新聞紙を折る。
事前準備	洗濯のり、食器用洗剤、砂糖を日本から持参し現地で調合。日本で試作した。枠やストローを用意した。	日本から新聞紙を持参して、現地で 1 枚ずつに分けた。
当日の流れ	① 事前に紙皿にシャボン液を入れておく ② PPT を用いてルール説明 ③ 3グループに分ける ④ 各々シャボン玉で遊ぶ	① 生徒に新聞紙を 1 枚ずつ配る ② 生徒を 2 人ペアにする ③ PPT を用いてルール説明 ④ 残り時間で実際にプレイしてもらう

	○×クイズ	福笑い
内容	日本に関するクイズを出し、生徒は体で○×を表現して回答する。(例) お相撲さんは車を運転出来る、日本は世界で 2 番目にマクドナルドの店舗数多いなど	４種類の福笑い（マリオ、ピカチュウ、おかめ、ひょっとこ） を用意し、目隠しをした状態でプレイヤー1 人が各パーツを動かす。また、周りの人は顔が完成するようにプレイヤーに指示する。
事前準備	○×クイズの問題・パワーポイント	福笑いで必要な台紙とパーツを日本で作成し持参した。
当日の流れ	① 生徒を座らせる ② PPT を用いてルール説明 ③ クイズを実施（問題を見せて 30 秒考えてもらう →○か×を表してもらい、答えを発表）	① 生徒を 4 つのグループに分ける ② PPT を用いてルール説明 ③ グループ内で 1 人ずつプレイ

	鬼めくり	生八つ橋
内容	日本の坊主めくりをアレンジしたもの。坊主を鬼、女性を桃太郎、貴族をサル・イヌ・キジに置き換えて行った。	日本の生八つ橋を食べてもらう。アレルギーや好みに配慮し生地はココア味ときな粉味の 2 種類、中身はあんこ・チョコ・イチゴジャムの 3 種類から選べるように準備した。
事前準備	ゲームで使用するカードを 50 枚×3 セットを日本で作成し持参した。	学校側にあらかじめ必要な調理器具の準備を依頼。日本でのリハーサルでは調理にかかる時間を測り当日の流れを確認するとともに、電子レンジが用意されないことも予想し、ない場合の調理方法も確認した。
当日の流れ	① PPT を用いてルール説明 ② 生徒を 4～5 人のグループに分ける ③ ゲーム開始	① 準備時間と開会式の間に生地を作成 ② 生徒に紙皿を配り、生地を選んでもらう ③ 中身の具を選んでもらい、生地を上に乗せて包む ④ 食べながら PPT で生八つ橋の説明を行う

5. 各ブースの反省

【シャボン玉】

中高生が対象ということもあり、シャボン玉を吹くだけではすぐ飽きてしまった子もいたので、何かシャボン玉を用いた的あてなどのゲーム要素を加えられると良かった。また、担当者がルール説明や案内をする原稿を用意しておくべきだった。シャボン液を入れる容器は紙皿だったため、すぐ底が破れて大量のゴミになったり、洗剤がたくさん余って捨てることになったりし、資源の無駄遣いになってしまった。

【新聞紙じゃんけん】

ルールはあまり難しくなく、こちら側が元気よく対応すると生徒たちも楽しく遊んでくれた。また奇数人数の班で生徒が 1 人余ったときは、TP10 期も混ざって行った。比較的簡単なゲームだったが、説明の PPT を作っておいたおかげで生徒たちにより伝わりやすかったと思う。

【〇×クイズ】

問題を多く用意していた分、短時間で回答が終わってしまったチームでも時間を残すことなく終えることができた。また、出題者側が積極的にコミュニケーションをとっていると、生徒も活発に参加してくれた。ただ、担当者が説明文を用意していなかったのでクイズの解説や始め方、終わりにもたつきが生まれてしまった。加えて、タイの生徒にはそもそも〇×クイズという概念がなく、それらを伝えることが難しかったため、手で〇×を示してもらうよりも担当者が〇×が書かれた紙を掲げて移動してもらう形をとったほうが良かったと思う。また、シンキングタイムが静かになってしまったので BGM を用意した方が良かった。

【福笑い】

生徒が皆笑顔で楽しそうに福笑いをしていた。目隠しも面白いデザインで、好評だった。ひょっとこやおかめよりもピカチュウやマリオが人気であった。パーツに関しては、細かくてどのキャラクターのものなのか少し分かりにくい部分があった。実際にプレイするときは、同じ子が何回も目隠しをしていたチームもあり、誘導不足だった。時間があと何分なのかが分からない時が何度かあり、時間配分に戸惑った。

【鬼めくり】

キャラクターは変更したものの日本の伝統的なカードゲームを体験してもらうことができた。予想より円滑にゲームが進んだことで時間が余り、もう 1 ゲームできるかどうかの判断が難しかった。このことから、カードを使って短時間でできるめんこ等のゲームを用意しておいてもよかった。

【生八つ橋】

生地の作成がうまくいかずブースで配布するのに間に合わなくなったため、急遽司会や TA に協力してもらい、伝言ゲームや人間知恵の輪を行うミニゲームブースに変更した。生八つ橋は全ブース終了後に追加で行ったゲームで勝った各班の代表に賞品として配布した。

当日まで電子レンジの有無が分からず、また日本との環境の違いもあり生地の作製が難航した。加熱を伴う調理は時間もかかり、環境にも左右されるため、食べ物を縁日のブースにするには、既製品にひと手間を加えるのみのものが好ましいと考える。トラブルもあったがメンバーや TA、EDF の協力もあり、結果的には生徒たちにも楽しんでもらうことができた。

6. 全体の振り返り

学校に行く前日まで生徒の人数が分からず、また細かい場所や設備なども当日まで分からないという厳しい状況だった。その中でも生徒の人数が分からないのは、物品の購入数や班分けに影響した。当日も想像していた備品がなく、結果的にブース設定を大幅に変えることになってしまった。しかし、不測の事態にも全員が臨機応変に対応したことで、時間内に終えることができた。

(1) 良かった点

・説明用 PPT を事前に作ってタイ語訳もしていたことで、通訳がいなくてもスムーズに進んだ。
・スタンプラリーの画像とブースの看板を合わせることで、移動をスムーズに行えた。
・不測の事態があっても臨機応変に行動できた。
・時間内にすべてのブースを終わらせることができた。

(2) 反省点

・想定していた物品がないという事態があったため、現地の物品がない場合も企画の進行に影響がないように配慮する。
・ブースで使う物品を事前にブースごとに仕分けていなかったため、当日の準備の際に手間取ってしまった。学校に持参する時点で、各ブースで使う物品を担当者に渡しておくとスムーズに企画を行うことができたと思う。
・想定外の事態が起きたときにメンバーではなくTA に助けてもらったため、役割を決める際には人手が足りていない場所を随時サポートする役を用意しておくとよい。

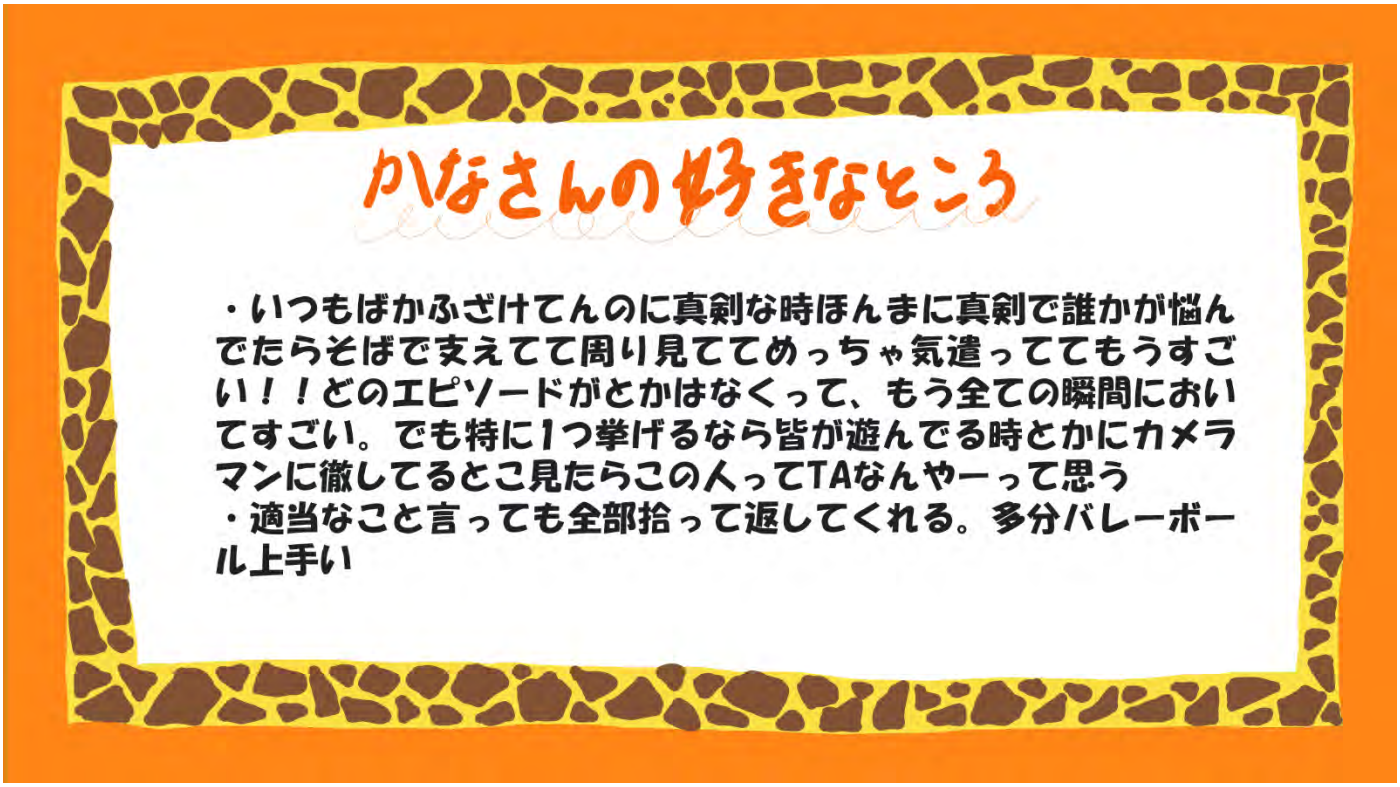
↑企画で使用したスタンプラリー、名札、看板

7. おわりに

予定していた生八つ橋がブースではなく賞品として渡す形にはなってしまったが、時間を延長してもらうことなく企画を終えられる最善の判断だったと思う。もう少し早く当日の準備を始めていたら、ブースで渡すことができたかもしれないので惜しい点となった。言語の壁に関しては、事前準備を万全にしていたため滞りなく進めることができた。また各ブースの TP10 期と生徒たちが楽しそうに交流していたため、当初の目的であるタイの生徒たちに日本の伝統的な文化や現代の遊びなどを体験してもらいながら、TP10 期と生徒の仲を深めていくという目的が達成されたので良かったと思う。

↑スタンプラリーの完成画像

～TP10 期エピソード集～



第三部
その他企画

英語ディスカッション

伊藤莉里、岡本珠理、加治瑞美

1. 概要

カセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）の学生と TP10 期が各 8 テーマに分かれ、英語でディスカッションを行った。

2. 目的

日本とタイの学生という、価値観や宗教、生活環境が異なる者同士が一つのテーマに関して議論し結論を出すことで、文化や考え方の違いを体感することを目的とする。

3. 事前準備

(1)8 つのテーマを決める。1 つのテーマをメンバー2 人が担当する。
(2)テーマに関連する情報を集める。
(3)意見をまとめ、PPT を作成する。

テーマ一覧

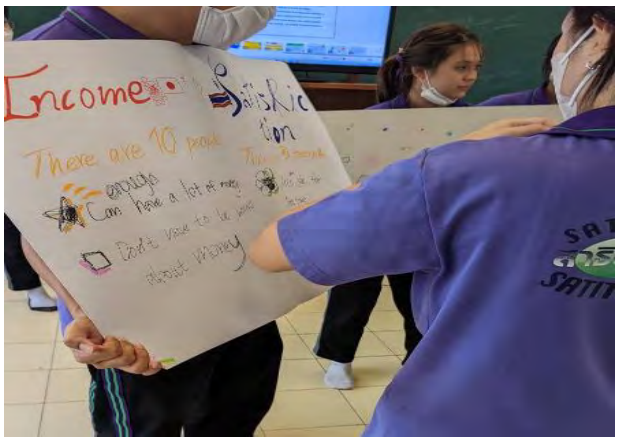
1	If you had a time machine, would you rather go to the future or past (and why)?
2	Differences between "adults" and "children" (When does a person become an "adult"? And what is the definition of "adult"?)
3	If you could, would you prefer to live in the country or the city (and why)?
4	Given one million dollars, would you spend it on yourself or on others (and why)?
5	If you had to live in a hot or cold country for the rest of your life, which would it be (and why)?
6	Would you rather be a rich person that everyone hates or a poor person that every loves (and why)?
7	Do you seek satisfaction or income in your work (and why)?
8	Would you prefer remote or on-site work / learning (and why)?

4. 実施内容

テーマごとに異なる教室に分かれて行ったため、詳細は異なるが、全体的にどの班も以下の流れでディスカッションが行われた。

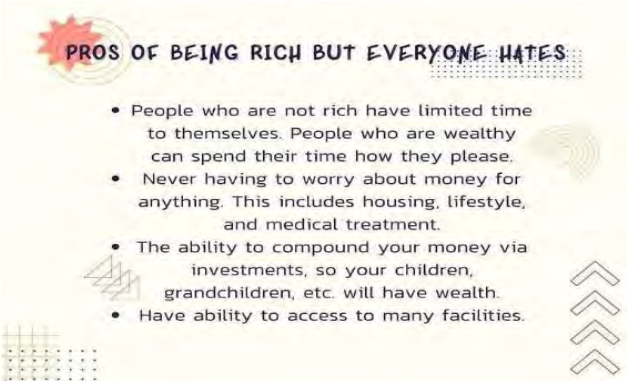
(1) 自己紹介（プレゼンの時間に含まれていた班が多かった。） 約 5 分ずつ
(2) サティカセ MP の学生、和歌山大学の学生による PPT を用いたプレゼンテーション、質疑応答約 20 分ずつ
(3) プレゼンテーションを踏まえたディスカッション 約 10 分
(4) ディスカッション内容を模造紙にまとめる。（各班で形式に違いはあった。） 約 20 分
(5) 写真撮影や学生との交流 約 15 分

全体で約 1.5 時間設けられていた。



［プレゼン資料の例　左：サティカセ MP　右：TP10 期］

テーマ： Would you rather be a rich person that everyone hates or a poor person that everyone loves (and why)?



4. 振り返り

［良かった点］

・先生方や学生たちは優しく、TP10 期の発表をよく聞いて、わかりやすく話してくれた。

・ディスカッションのあとの模造紙に内容をまとめるグループワークでは、積極的にタイの学生と話し合えた。

・ジェスチャーなどを交えてより伝わりやすいように工夫して発表できた。

［反省点］

・サティカセ MP の学生は沢山練習してきたような発表だったが、自分たちはほかの企画と比べて英語ディスカッションの優先順位が低く、練習時間を多く設けられなかったため、発表の出来に差が生じ後悔したメンバーが多かった。

・声量が小さかった。

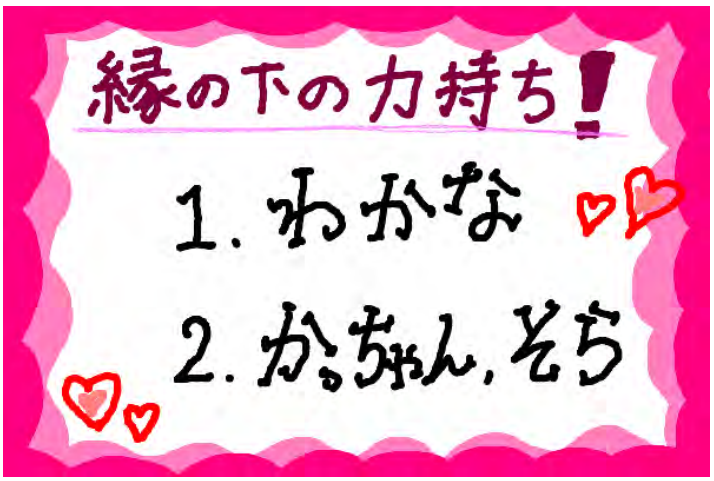
・準備の少なさからプレゼンテーションの仕方が堅苦しくなってしまった班や台本をずっと見ながら発表してしまった班もあった。

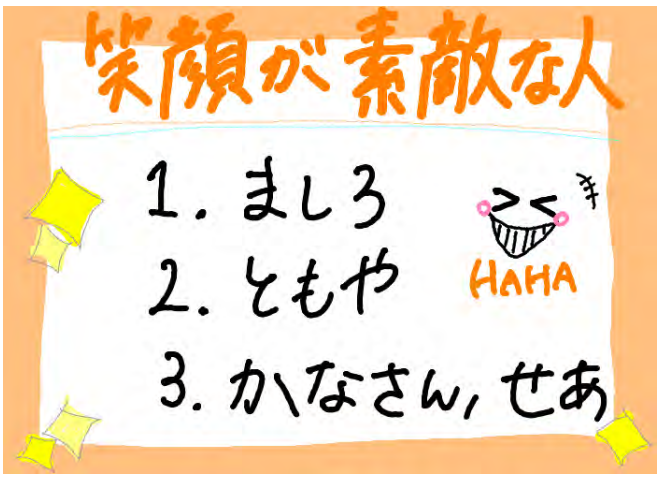
・約 1.5 時間英語を話し、聞き続ける状況だったので、英語の勉強をもっとしておけば良かったという人が多かった。

5. おわりに

事前にどのようなディスカッションの形態か詳しく把握できていなかった。又サティカセ側との齟齬もあり、準備の仕方が分からず、十分ではなかった。そのため、サティカセ MP の学生の完成度やプレゼンテーションの内容、英語力に大きく差が出てしまったことに後悔と申し訳なさを感じたメンバーが沢山いた。そのようなことを無くすために、渡航前に PPT の進捗報告やプレゼンテーションの練習などを行い、お互いに確認し合ったり英語の勉強会を実施したりするとサティカセ MP の学生とより有意義な時間を過ごせるだろうと感じた。また、本番で焦らないように、渡航前に練習する際は、本番と同じような形式で日本語もしくは英語でプレゼンテーションを行うと良いだろう。更に実際にメンバー内で本番聞かれるであろう質問を予想し、その回答を準備しておくとなお良い。

～TP10 期ランキング集～





TP10 期インスタグラム運営

中村玲奈、廣川剛彦、伊藤里莉、内藤未空、中川和奏

1. 概要

TP10 期独自の企画として、インスタグラムアカウント(@thai_program_10th)を作成し、事前講義から事後講義までの TP10 期の活動を発信する。

2. 目的

TP10 期の MISSION『SNS を活用して、TP での経験を 1 人でも多くの人に発信する』の達成のため。

3. 運営について

(1)インスタ班

インスタグラムアカウント開設にあたり、アカウント運営を担うインスタ班が作られた。投稿作成の際の進捗状況の把握や連絡の円滑化のために、調査企画、交流企画の各班から必ず 1 人はインスタ班に所属しているように構成されている。班員 5 人のうち、3 人を文章班、2 人を画像班とし、作業を分担して投稿の作成を行った。

(2)投稿作成手順

基本的な投稿作成手順は以下の通りである。

①投稿テーマを決定
②文章班が投稿のキャプションを作成
③インスタ班全員で②の文章を確認
④文章をもとに画像班が画像作成
⑤インスタ班全員で④の画像を確認
⑥文章・画像をあわせ藤山先生に確認してもらう
⑦修正点が無ければ時間を指定して投稿を予約
⑧投稿

なお、ストーリーズの更新はインスタ班で各々自由に行った。ストーリーズで発信する企画についてはインスタ班で分担するのではなく、班員のいずれかが責任を持って進行した。

(3)ルール

第 7 回事前講義にて全体でアカウント利用、投稿のルールを相談した。その後インスタ班で再度相談の上、以下のルールを定めた。

・アカウントを共有しているため、他人の投稿を TP10 期のアカウントから見ないようにすること。

・投稿は、文章と画像の両方を藤山先生のチェックを通してから行うこと。
・ストーリーズの更新は藤山先生のチェックは不要であること。
・キャプションは絵文字などを活用し、親しみやすい文体にすること。

4. 結果

TP10 期のインスタでは以下のような発信を行った。

(1)渡航前
・活動紹介　4 投稿(調査企画、交流企画など)
・合宿報告　2 投稿
(2)渡航中
・活動紹介　1 投稿(フリマ班)
・渡航 1 日ごとのリール動画　11 本
(3)渡航後
・個人コラム『わたしのタイコラム』　16 投稿
・お気に入り写真紹介　2 投稿
・TP10 期渡航コラム　3 投稿
(4)ストーリーズ
・TP10 期メンバー紹介
・渡航カウントダウン
・サブ要素としてタイクイズを掲載
・TP10 期インタビュー『タイプロインタビュー』
・メンバーランキング
・その他活動の様子を適宜掲載

5. 振り返り

TP10 期の知人からタイ渡航中に出会った人まで、様々な人からのフォロー、投稿へのいいね、感想をもらうことができ、TP10 期の活動とタイについてより多くの人に知ってもらえた。TP10 期以外の人でも「見たい」と感じるものにするため、投稿作成に関して親しみやすい文体とデザインにすることを心掛けた。その結果、実際に TP10 期のインスタをフォローしてくれている人から「投稿を楽しみにしている」といった声を貰うことができ、TP10 期の MISSION「SNS を活用して、TP での経験を 1 人でも多くの人に発信する」の達成に効果的であったと感じた。投稿を楽しんでくれる人たちの存在が、インスタ班の運営へのモチベーションにも繋がった。

しかし、渡航中の運営を後回しにしてしまい、本来タイ渡航中の活動の中心にする予定であったストーリーズ更新を怠ってしまった。また、タイで交流した人にインスタを紹介したにもかかわらず、投稿のキャプションに英語やタイ語を付けていないことなど外国語表記の配慮が欠けていた。これらの問題は、渡航中の役割分担や渡航中にやるべきこと等を事前にインスタ班で話し合えていなかったことが原因と考えられる。解決策としては、渡航前からインスタ班や TP10 期全員で発信する内容や活動計画を決定しておくことや、インスタ班の人数を減らし情報共有を行いやすくすることが挙げられる。また、今回私たちはこのアカウントを広めるため、フォローをこちらから行うか、こちらからはフォローしないのかで議論したが、結局明確なルールは設定しなかった。これは、アカウント作成前に議論するべき議題であった。

6. おわりに

今回インスタ班は外部への発信を目的として運営を行っていたが、インスタの投稿は TP10 期メンバー自身が渡航の思い出を振り返る手段にもなった。TP10 期の活動のひとつとして、自分たちにとっても有益なものになったことを嬉しく思う。

最後に、参考資料として投稿のアカウントのリーチ数が多かったものの数、そしてリーチ数に占めるフォロワーの割合の表を掲載しておく。

シリーズ名	投稿数	リーチしたアカウント数の最大（何投稿目か）	フォロワーの割合
TP10期全体紹介	4	831(1)	18%
合宿報告	2	792(1)	21%
活動紹介(フリマ班)	1	321(1)	64%
渡航1日ごとのリール動画	11	1046(11)	18%
わたしのタイコラム	16	439(1)	42%
	34	3429	33%

2023 年 6 月 16 日時点

この集計を通じ、読み取れることは以下の通りである。

・シリーズで投稿するものは最初の投稿が伸びやすいのと同時に、シリーズが続くと伸びにくくなる。

・リール動画は投稿よりも多くの人に届けることができ、何個目の投稿かに関わらず再生数が変化する。リーチ数は音源にも左右される。

数値を使った分析を行う場合、インサイト数やフォロワー数等の増減が分析材料になるため、報告書を作成する時点のみならず、こまめに数値を記録することで考察が行いやすくなることも分かった。これらの反省点も生かして、今後の TP でも、ぜひ SNS 発信を行い自分たちの渡航と思い出を振り返る機会を作ってみて欲しい。

日本の『kawaii』を届けるフリーマーケット

内藤未空、中里向日葵、中村玲奈

1. 概要

ボランティア活動の一環としてバンコクのナイトマーケット(Hua mum Market)にて、フリーマーケット（以下フリマ）を実施した。TP10 期は『kawaii』をテーマに日本ならではの商品を中心に集め、販売した。

2. 目的

(1) 日本の『kawaii』商品をタイの人たちに実際に手に取ってもらい、日本を身近に感じてもらう。
(2) 目標売上金額を 5000 バーツ（日本円で 2 万円）に設定し、商品の完売を目指す。
(3) 売上金を EDF に寄付する。

3. 事前準備

(1)商品集め

TP10 期や知人に協力を依頼し商品集めを行った。TP10 期のインスタグラムのストーリーでも商品集めの宣伝を行った。商品集めの際は事前に商品候補の物の画像を送ってもらい、商品になりそうな物の個数やどんな種類の物があるかを把握できるようにした。その後、事前講義にて実際の商品を持ち寄り選別して、商品を決定した。また、ハンドメイドの商品がフリマで売れやすいのかどうかを調べるために、交流企画の水引班にも協力してもらい、水引のしおり、イヤリング、ピアスを商品として取り扱った。

(2)商品の管理

商品番号	1	2	3
商品名	ムック	黄緑コインケース	牛乳パン
価格	20	20	20
管理者	みそら	みそら	みそら
メモ			6

フリマ班が商品管理を行いやすくするために、商品管理表を作成した（左図）。商品番号、商品名、価格、管理者（フリマ当日まで商品を保管している人）、メモ、商品画像貼付の欄を作った。作成した表は現地で簡単に書き込みができるように紙にコピーしてタイに持参した。

(3)シフト作成

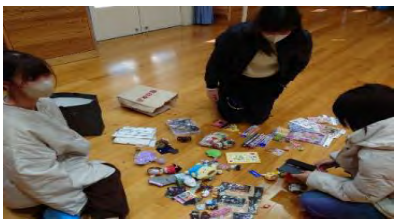
第 2 回合宿でフリマ当日のシフト表を作成した。フリマ会場にて調査企画のアンケートを行う班があったため、その点を配慮しながらシフトを組んだ。作成したシフト表と各役割については以下の通りである。

記録：商品価格の把握、売却時期の記録、サポート
会計：会計コーナーで金銭の受け渡し
接客：接客、商品の説明
宣伝：会場内で看板を持ち宣伝

	Aチーム		Bチーム		Cチーム	
記録(1)	れいな					
会計(1)	ひまり		ゆみ		さくら	
接客(2)	みそら	ましろ	たまみ	いなみ	じゅり	わかな
宣伝(1)	ともや	ゆうこ	せあ	そら	たけ	りり

(4)お礼の品作成

フリマで商品を買ってくれたお客さんへのお礼の品として、TP10 期のインスタグラムアカウントの QR コードを載せたメッセージカードを約 200 枚作成。



4. 現地での流れ

(1)現地での事前準備

EDF とフリマ班で商品の金額を決定する時間が 3 日前の朝食時間に設けられ、その場で交渉し金額を決定した。それをもとに、金額と商品番号を記入したタックシールを 1 つずつ商品に貼った。フリマ前日に、宣伝で使えるように画用紙で看板を 2 枚作成した。また、お釣り用のタイバーツは自分たちで用意する必要があったため、渡航初日から細かいお金を残しておくようにメンバーに声をかけておいた。集めたお金は Excel の表にして視覚的に管理し、最終的に 4000 バーツほどの釣銭となった。1、5、10、20 バーツについてはそれぞれ 40 枚程度回収し、50、100、500 バーツに関しては所持しているメンバーがいれば回収させてもらう形をとった。TP10 期のフリマでは、お釣りとして 10 バーツを最も多く渡した。

(2)当日の流れ

フリマ会場に到着後、EDF の持参したテーブルやブルーシートと、マーケットの事務所から借りたイス、机を使用し売り場を整えた。商品は、マスキングテープで机に仕切りを作りながら並べた。アクセサリー類は、物品として購入していたアクセサリースタンドに掛けて展示した。会計の位置や販売の流れも確認した。商品を多く買ってくれた人や袋を必要とする人のために、会計の位置に商品を入れるビニール袋も置いた。

フリマ会場へ到着する時間が大幅に遅れたため、もともと 1 チーム 30 分交代で組んでいたシフトを 15 分交代に変更し、そのシフトに沿って 18：30 からフリマを開始した。また、売れ行きの状況を見ながらその都度 EDF と値下げを行った。交代時間に近づいた時や、値下げや変更が発生した時は LINE を送信して TP10 期に伝達できるようにした。途中で宣伝に使用する看板が足りないという意見を貰ったため、追加で 1 枚作成した。周囲が暗くなり商品が見づらくなったときは、EDF の持参したライトで照らしてもらいながらフリマを続行した。終了後、手元にあるお金と準備していた釣銭の差額を計算して売り上げを算出し、売れ残った商品の分別をした。

5. 成果

売上金額は 5092 バーツ(日本円で約 20368 円)だった。商品の売り上げについては以下の表に示す。

	用意した商品数	売れた商品数	残った商品数	売上率(%)
アクセサリー	26	22	4	84.6
文房具	26	19	7	73.1
ぬいぐるみ	11	8	3	72.7
キーホルダー	59	39	20	66.1
ポーチ	10	5	5	50.0
おもちゃ	4	2	2	50.0
その他	2	1	1	50.0
布類	5	2	3	40.0

水引を含めたアクセサリーや日本のキャラクターものの商品（キーホルダー）がよく売れた。雑巾や手ぬぐいなどの布類は、TP10 期フリマの『kawaii』というコンセプトからも少しずれており、タイのお店でも買うことができるため、売れ残ってしまった。

6. 振り返り

目標(1)について、日本のキャラクターの商品やアクセサリーを多く扱ったこと、またそれらの売り上げが良かったことから日本の『kawaii』商品をタイの人達に届けることができたと考える。目標(2)については、商品の完売は達成できなかったものの目標金額には到達できた。目標(3)についても、最終的に売上金を EDF に寄付して達成できた。

商品集めに関して、集まった商品のほとんどは TP10 期が持ち寄ったものであったが、TP10 期のインスタグラムのストーリーを見ていた知人からも協力してもらうことができた。しかし、ストーリーのように不特定多数に協力を要請するよりも、TP10 期から直接協力を要請した方が効果的であると感じた。

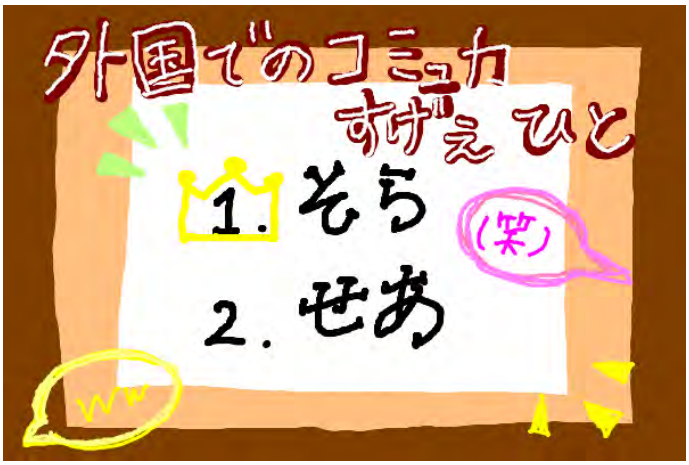
当日は開始時間が予定より遅くなったこともあり、人通りが少なく、フリマ開始直後からあまり売り上げが伸びなかった。これにより、フリマ全体の士気が下がってしまった。商品を購入してくれた人の数も少なく、お礼のメッセージカードも少ししか配布できなかった。これを踏まえフリマ開始直後の動きが重要であると強く感じ

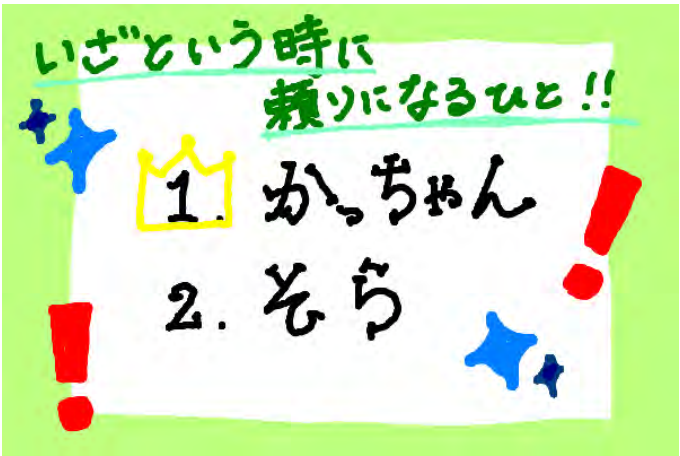
たため、全体的により宣伝に力を入れてフリマを進めていくべきだった。改善点としては、配置を調整して宣伝担当の人数を増やすこと、宣伝に使用する看板を多めに用意しておくことが挙げられる。また、宣伝担当のメンバーが呼び込みを断られて精神的に辛いと感じていた時があったので、あらかじめその点を配慮して人数調整とシフト決めを行うことも大切である。また接客に関して、商品に触れる機会がフリマ当日しかなかったため、商品の説明がうまく行えなかった。TP10 期で行う企画として、フリマへの理解を全員で深めていくべきであったと考える。

7. おわりに

商品に関しては、持っていくのは大変だが、大きいものを持っていく方がインパクトを与えられるのかもしれない。しかし、小型で軽量のものを集めた方が、TP10 期内で荷物分担もしやすく１人当たりの荷物量を抑えられたことは事実である。ハンドメイドの商品は日本製のアクセサリーという点からお客さんの興味を引くことができた。当日については、時間帯や場所が変更になることも考えて、展示ができるようにフリマ班がディスプレイ用のライトやシートを持っていくと安心かもしれない。TP10 期として最後の企画だったが、共に協力して成功させることが出来て良い締めくくりが出来た。

～TP10 期ランキング集～





ホスピタリティ

宮本ましろ、長尾咲良

1. 概要

企画の待ち時間やちょっとした空き時間に遊べるような、じゃんけん列車や、折り紙などのアクティビティの企画を考え、生徒たちと一緒に実行する。また、タイの学生にお礼の品として日本らしいものをプレゼントする。

2. 目的

Maeon Wittayalai School の学生やカセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）の学生に感謝の気持ちをこめて、日本らしさが伝わるような手土産を渡す。互いのアクティビティの準備時間などの空き時間に、TP10 期とタイの学生が交流できるような企画を考え、より多くの楽しい時間を共有する。

3. 事前準備

12 月 26 日から、冬休みの期間にかけて扇子の作成をした。まず無地の扇子を 60 個用意し、TP10 期 1 人につき 3～4 本の無地の扇子を配布し、四字熟語やことわざを書いてもらった。扇子を渡すに当たっては、ただ渡すのではなく、扇子に書かれた言葉の意味を伝えることでコミュニケーションを図る目的があった。そのため、扇子が閉じてあっても何が書かれているのか分かるように、作り終わった扇子には書いた言葉を付箋に記入してもらった。自分が作った扇子を渡す予定だったため、作り終わった扇子は袋に名前を書いてもらい回収した。

4. 当日の流れ

日程	内容
2 月 17 日（渡航 3 日目、Maeon Wittayalai School 2 日目）	日本食実演（白玉）の準備をしている時にラインダンス、じゃんけん列車を行った。サティカセ MP の水引体験の人数が想定よりも少なかったため、バディにも水引のストラップを渡すことを決める。ホテルに戻ってから、30 個程度のストラップを水引班が制作。折り紙も余りが多く出たため、それを使って手紙を書いた。
2 月 18 日（渡航 4 日目、Maeon Wittayalai School 最終日）	喜捨の後、お別れの時にポケモンメンコ、水引ストラップ、手紙を TP10 期からバディにプレゼントした。
2 月 23 日（渡航 9 日目、サティカセ MP2 日目）	調査班のアンケート回答後、生徒の送迎バスの時間までにバディに扇子 2 本を渡す。お別れの時に渡す予定だったが、最終日は時間がなかったため、この日に変更した。
2 月 24 日（渡航 10 日目, サティカセ MP 最終日）	修了式の後、バディ（1 人）とバディ以外子達にもメッセージ付き折り紙を渡した。

5. 振り返り

	改善点	良かった点
事前準備	・物品購入リストの記入が遅れたため、大学に購入してもらうことができなかった。購入費はTP10期から徴収する形になったため 、手土産は早めに決める必要がある。	・みんなで協力して扇子づくりに取り組めた。 ・生徒の数が詳細に分からなかったが、どのような遊びをするのかをある程度決めていたことで当日も対応できた。
渡航中	・扇子をバディだけに限定したため、扇子が余った。しかし、余った数が中途半端だったため、バディ以外の子には渡せなかった。 ・英語ディスカッションで関わった子たちにもお返しできる物があればよかった。	・タイの学生と一緒にホスピタリティのアクティビティを楽しめた。 ・その場で決めなければいけないことが多かったが、ホスピタリティ班の判断が早くTP10期も臨機応変に動けた。 ・特にラインダンスが好評で盛り上げることができた。
プレゼント内容	・バディやバディ以外の子から想像以上のお礼の品をもらったので、手土産にもう少し予算をかけるべきだった。具体的には、装飾やラッピングをするなどして、こだわりのある物を渡せるとなお良かった。 ・手紙を渡すときに、折り紙で代用したため、レターセットを持っていけば良かった。 ・バディには扇子を用意していたが、バディ以外には、渡せるものが少なかったため、数に余裕を持った手土産を用意していくべきだった。	・折り紙はすぐにプレゼントを作ることができ、手紙などの代用品にもなるので、2セット程持っていくべき。 ・扇子は日本らしさもあり、年中暑いタイで使えるものだったので良かった。また、生徒たちに扇子に書いてあることわざや四字熟語の意味を教えることで、日本語を知ってもらえて交流にも繋がった。 ・数少ない手土産の中で、組み合わせを工夫してその時にできる最善の形でプレゼントを渡せた。

6. 反省

バディにたくさんプレゼントをもらい、自分たちの手土産の少なさが浮き彫りになった部分もあった。しかし、他企画との連携はしっかり行い、乗り切ることができた。手土産は1種類だけではなく、日本の景色のポストカードや栞など安価で荷物にならないようなものを何種類も用意していった方が良い。今回は手作りで心のこもったものがプレゼントできたが、手作りのものは作成に時間がかかるため、既存の製品でも良かったかもしれない。また、不測の事態に備えいくつか案を考えておいたり、大縄など一緒に遊べるようなものを用意したりするとなお良い。全体を通してホスピタリティ班の人数が2人では足りないと感じたため、人数を増やした方が良いかもしれない。

7. 持参すると良いもの

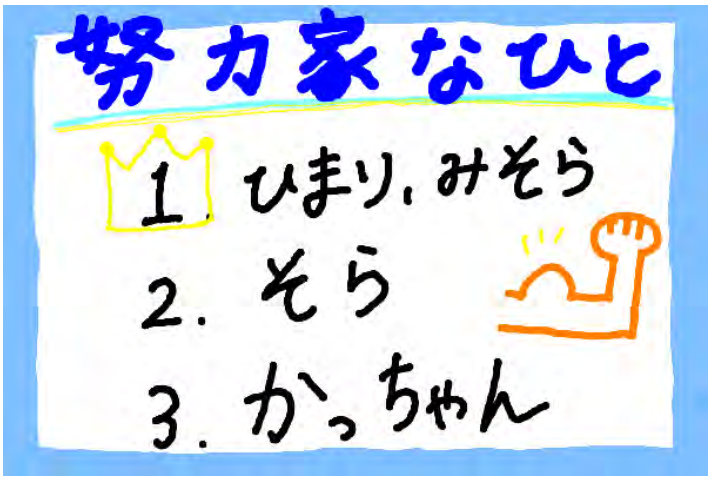
・折り紙、千代紙や和柄のもの等
・MONO の消しゴム、動物や食べ物をかたどったおもしろ消しゴム→日本の消しゴムが好評だったため。
・日本デザインのシールやアニメキャラのシール→かさばらず、ばら撒きにも適しているため。
・個包装の日本のお菓子（ハイチュウ、キットカット抹茶、ポッキー、たけのこの里、きのこの山など）
　→生徒の人数が分からなくても対応しやすいため。
・日本らしいアクセサリーや刺繍をした小物→水引が好評だったため。
・アクアビーズなどの手作りのキーホルダー等
・TP メンバーの地元でしか買えない個包装のお菓子や、ばら撒ける手土産

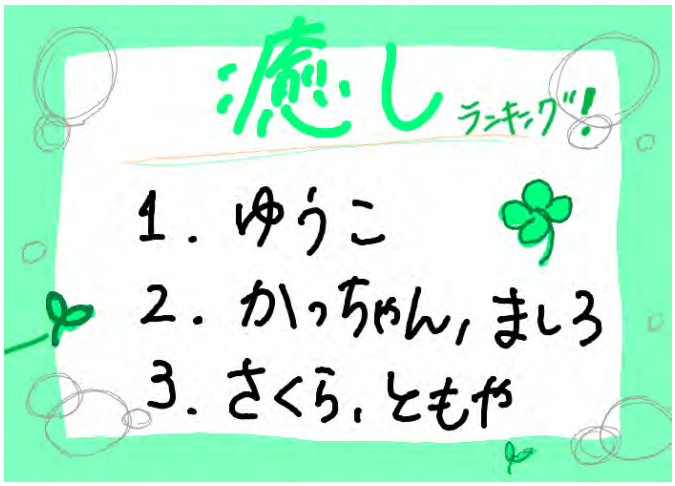
8.　おわりに

　ホスピタリティ班は 9 期の反省を生かして、10 期から創設された班である。主な仕事内容は、タイの学生に日本からの手土産を事前に用意すること、現地での空き時間を有効活用した遊びの司会進行を実行することだ。この企画を通して、タイの生徒と TP10 期の絆を深められ、プレゼントを渡すことで感謝の気持ちを伝えることができた。事前の情報が不十分ではあったが、その場で考えたラインダンス、じゃんけん列車は、こちらがお手本を見せたり誘導したりすることで盛り上がることができ、皆が笑顔だったため TP10 期とタイの生徒は十分交流できたと思う。

　ホスピタリティ班も TP10 期の協力でその場で最善の対応ができた。
この企画を通じて、多くの笑顔を見ることができたので「より多くの楽しい時間を共有する」という目標は達成できたと言える。

～TP10 期ランキング集～





日本和歌山紹介

廣川剛彦、稲見克宥、中川和奏、手塚有海

1. 概要

日本の食やお祭り、和歌山県の特徴、和歌山大学についてプレゼンテーション(以下プレゼン)を Maeon Wittayalai School とカセサート大学付属高校マルチリンガルプログラム校(以下サティカセ MP)で行う。

2. 目標

Maewon Wittayalai School やサティカセ MP の生徒たちに日本や和歌山県、和歌山大学を工夫を凝らして紹介する。また、日本や和歌山の魅力を知ってもらい興味をもってもらうこと。

3. 実施方法・内容

第 2 回合宿の際に、「農村の学校である Maeon Wittayalai School と日本語教育プログラムのあるサティカセ MP では日本に関する知識、関心が異なることが予想される」との意見があり、Maeon Wittayalai School 用とサティカセ MP 用の 2 種類のプレゼンを作成、発表することに決定した。

(1) Maeon Wittayalai School 用

PPT は簡単な英単語を用いて作成した。プレゼンは日本語で行い、その後タイ語に通訳してもらった。

①日本や和歌山県についての認知度やイメージについて生徒に問いかけた。

②日本紹介

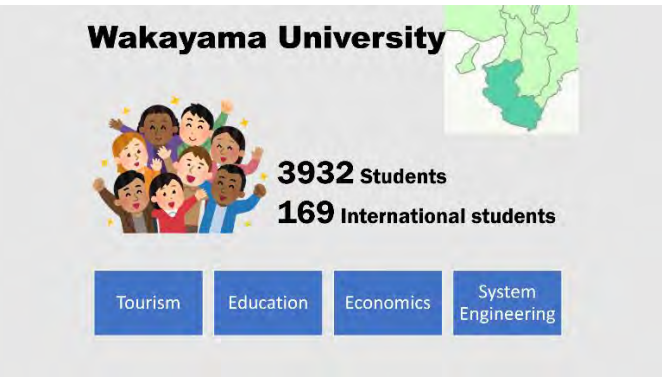
地方ごとに分けてそれぞれの地方の特徴、観光地、グルメ、そしてお祭りについて紹介した。お祭りに関しては、動画を用いることで分かりやすく紹介した。

③和歌山県紹介

和歌山県の人口や土地の大きさ、平均気温について、タイの数値と比較しながら紹介した。また、グルメや観光地についてもより詳しく紹介した。

④和歌山大学紹介

和歌山大学の学部や生徒数、留学生数を紹介した。



(2)　サティカセ MP 用

スライドは英語で作成し、プレゼンも英語で行った。

①和歌山大学紹介

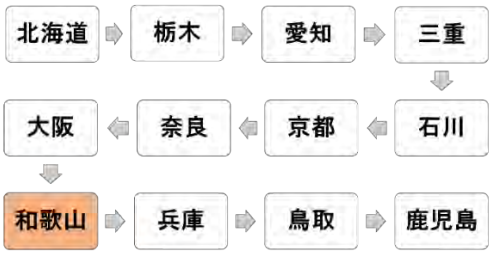
和歌山大学の学部や生徒数、留学生数を紹介した。

②導入

まず、日本や和歌山県についての認知度やイメージについて問いかけた。その後、TP10 期の出身地が雑多であることを紹介し、実際に、その出身都道府県が全部でいくつなのか予想してもらった

③メンバーの出身の都道府県紹介

各都道府県についてスライド 1 枚で紹介した。スライドの内容は、その都道府県出身のメンバーに『食べ物、観光地、アピールポイント』について事前にアンケートを取ったものを参考に作成した。実際の発表ではスライド内容を紹介後、メンバーにそれぞれの出身都道府県に関係したパフォーマンスをしてもらった。和歌山県に関しては複数のスライドを使い、詳しく紹介した。順番は以下の表の通りである。



4.　結果

発表は、Maeon Wittayalai School でもサティカセ MP でも盛り上がり、日本や和歌山に関心を持ってもらえた。

Maeon Wittayalai School では通訳を交えるため、簡単で分かりやすい日本語を使ったほうが良かった。また動画を入れることで、より生徒に伝わりやすいプレゼンになった。

サティカセ MP では、自分の出身地を紹介するパフォーマンスが英語でのスピーチやオリジナルのポーズ、楽器の演奏など多様で、単にスライドを見せるよりも工夫のある紹介になった。サティカセ MP では英語で紹介するため、原稿はプレゼンしやすい単語、文法で書き、PPT で補足説明を交えながら詳しく説明をした方が良い。

和歌山大学に関する説明は、日本・和歌山に関する説明よりも単調になってしまったため、例えばメンバーが校内を紹介する動画を用いるなど、和歌山大学の特色がより伝わる内容にした方が良い。

5.　おわりに

この企画を通して、準備の取り掛かりが遅くなったことやプレゼンの方向性が定まらなかったこと等の反省がある。良いプレゼンを作るにはやはり時間を要するので、複数人で分担して作成するのが良い。その際は、予めルールや詳細を決定し統一感を出すことが必要だと感じた。Maeon Wittayalai School では通訳のミントさん、サティカセ MP では TP10 期に助けられ成功を収めることが出来た。プレゼンを積極的に聞いてくれたタイの学生たちを含め、関わった全ての人に心から感謝する。

また、渡航前は「農村の学校である Maeon Wittayalai School と日本語教育プログラムのあるサティカセ MP では日本に関する知識、関心が異なることが予想される」という意見があったが、実際は Maeon Wittayalai School とサティカセ MP の両方で日本への関心の高さを感じた。

今回のプレゼンからタイの学生に日本や和歌山県に興味をもってもらえ、そして実際に訪れてくれる人が 1 人でも多くなることを期待している。

しらたま班

池田世安、植川智哉、佐竹結子

1. 概要

日本食実演班主導で白玉団子を製作した。また、様々なトッピングを用意し、味に変化を加えることで、飽きさせないように工夫を凝らした。さらに、日本由来のきなこや黒蜜等のトッピングの味や特徴を説明するために、手書きの紙芝居を作成した。日本食実演の時間は約 1 時間であった為、調理器具・具材等準備(5 分)、白玉団子調理(50 分)、盛り付け(5 分)を目途に調理を行った。

2. 目的

Mawon Wittayalai School の生徒たちに日本食を食べてもらい、日本食の魅力を伝える。

3. 準備物

白玉団子(100 人前)

日本から持って行った具材・物品	分量	現地で用意してもらった具材・物品	分量
白玉粉	2 kg	コンロ	2 個
みたらし	900g	まな板	2 枚
餡子	500g※	ボウル	2 個
黒蜜	600g	お鍋	2 個
きなこ	500g	ミネラルウォーター	20L
紙コップ	200 個	お皿	4 枚
穴あきおたま	2 個	ざる	1 つ
カウンター	2 個		
お箸	100 膳		

※餡子は縁日班と兼用したため、実際に日本食実演班が使用した量は表記より少ない。(また、縁日班が使用予定であったいちごジャムとチョコレートソースも追加でトッピングとして使用した。)

4. 事前準備

白玉の説明やトッピングの味などを Mawon Wittayalai School の生徒に分かりやすく伝えるために、第 2 回合宿で紙芝居を 6 枚作成した。また、有志で募った調理メンバーで集まり、日本食実演班のメンバーの自宅で試作会を行った。この試作会で、調理工程を確かめるだけでなく、必要な物品や不要な物品が明らかになったので、実施する価値があったと考える。準備物はかなりの量があった為、TP10 期で材料を分担して、現地に持って行った。

5. 結果

TP10 期 16 名、引率教員 2 名、Mawon Wittayalai School の生徒 43 名、現地教員約 30 名の合計 91 名に白玉を提供した。計 2 kgの白玉粉を使用して約 500 個の白玉団子を製作することができ、1 人につき 5 個ずつ紙コップに入れて提供した。

また、味付けのトッピングは、みたらし、餡子、黒蜜きなこを準備していたが、縁日班で余ったいちごジャムとチョコレートソースのトッピングも追加し、計 5 種類となった。日本食実演班 3 人、TP10 期から有志で集まった 4 人の合計 7 人で調理を行い、その他はホスピタリティ班の企画に参加した。調理側の人が足りなくなった場合、随時ホスピタリティ班からメンバーを招集する形をとっていたが、7 人で上手く役割分担をして調理することができた。

さらに、白玉団子を食べる前に、事前に作成した紙芝居を使用して、白玉団子とトッピングの説明を行った。生徒たちが美味しそうに白玉団子を食べる様子を見ることができた。

6. 成果

事前に試作をしていたこともあって、白玉を作る作業は滞りなく進み、白玉の数が余ったり足りなくなったりすることもなかった。調査企画で使用予定であったカウンターを使用して、白玉の数を数えながら調理を行ったのが功を奏したのではないだろうか。また、紙芝居を作成したので、生徒たちにトッピングの味や特徴がわかりやすく伝わった。さらに、白玉の数に余裕があり、TP10 期が生徒たちと一緒に白玉を食べることができたので、生徒たちや先生方と楽しくコミュニケーションを取る光景が見られたのは非常に良かった。

黒蜜きなこ・みたらしが現地生徒に人気のトッピングであり、日本らしい味付けがタイでも人気であるということに驚いた。

7. 反省

はじめは、Mawon Wittayalai School の生徒に、自分が食べたいトッピングの列に並んでもらう予定であった。しかし、当日慌ただしくなったこともあり、生徒を 5～6 人程のグループに分け、TP10 期がトッピングを各グループに持っていく形になった。この方法にしたことで、生徒たちが全てのトッピングを食べ比べできるようになり、結果的には良いものとなったが、変更点が伝達できていなかったこともあり、調理メンバーが混乱する場面もあったので、情報共有をしっかりと行う必要があった。

また、アレルギー面の考慮が出来ていなかった為、白玉を配る直前に、通訳さんを通じて、アレルギーを持っている生徒がいないかどうかを確認してもらう形になった。幸いにも、アレルギーを持っている生徒はいなかったので、滞りなく進めることができたが、使用する食材が決まった段階でアレルギー面の考慮を事前に行うべきであった。

8. おわりに

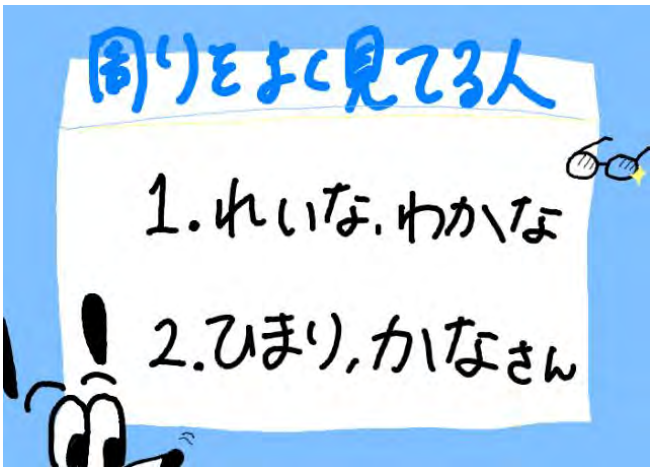
トッピングの配り方などが急遽変更になり、少し戸惑った場面もあったが、TP10 期の協力もあり、上手く調理・提供することができた。また、ホスピタリティ班の協力のおかげで、生徒たちがゲームを行っている間に調理を行うことができたので、時間を余すことなくスムーズに提供することができた。さらに、タイの生徒たちはきなこや黒蜜、餡子の存在を知らなかったため、何が原料のものなのか、どのような味なのかを紙芝居を用いて説明することはかなり重要であったと考えられる。

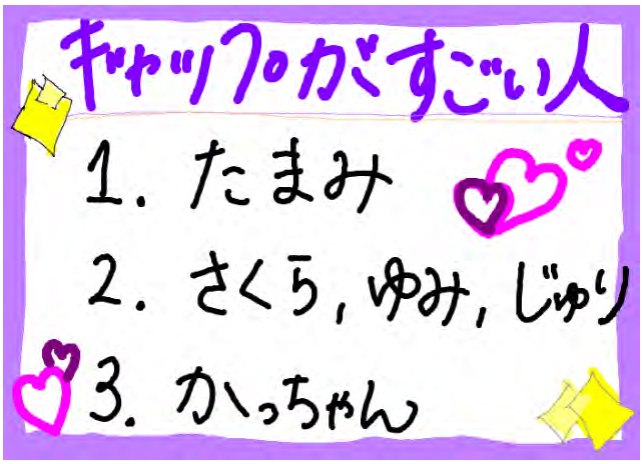
この企画を通じて、生徒や先生方が美味しそうに日本食を食べる姿を見ることができたので、「農村の子供たちに日本食を食べてもらい、日本食の魅力を伝える」という目標は達成できたといえるのではないだろうか。

9. 後輩へのアドバイス

・調理が簡単で、また短時間で完成するようなメニューを考えることを勧める。
・現地生徒の数が曖昧であるため、おおよそ 100 人分の材料を用意すると良い。
・有志を募り、日本食班と一緒に料理を製作するメンバーを数名集めるべきである。
・準備物や当日の流れの確認ができるため、事前に必ず試作会を行うべきである。
・来年以降も、料理を制作している間にホスピタリティ班がゲーム等を行うことで、時間を有効活用することができるので、事前に役割分担を行い連携をとるべきである。また、製作時はホスピタリティ班と頻繁に進捗報告を行い、互いの進行状況を知っておくと良い。
・現地で臨機応変に対応できるように、どういった問題が発生し得るのか事前に想定しておくと良い。
・日本の食材を使用する場合は、現地の生徒たちに味や原材料の説明を行うと良い。
・アレルギー面の考慮を忘れてしまったので、TP11 期以降はアレルギー等にも考慮するように気を付けてほしい。

～TP10 期ランキング集～





TP10期プチエピソード集

『怪我には注意して』

５日目に訪れた場所で木製バギーに乗るという体験をしました！！僕はとってもはしゃいでしまい、教授に「後ろに乗ってください!!」と言い、二人乗りバギーに乗って激坂に向かって走り出しました。それからまもなくして教授の威厳に耐えられず制御を失い、坂を転がる丸太のようになった僕らのバギーは坂を下りはじめました。緩やかな曲がりに差し掛かったとき、ハンドルはもうコントロールできず、谷側の返しに引っかかりクラッシュ。次の瞬間には二人してバギーの下敷きになっていました。もしかしたら谷から落ちていたかもしれません。楽しいタイの旅ですが、怪我をしてしまったら台無しになります。自分の力を過信せずに楽しく落ち着いてタイでの旅を楽しみましょう。

廣川　剛彦

『地獄のlake view hotel』

ある部屋はボロボロ、シャワーは出ない、まるでベッドは石のよう。その名も…lake view hotel。きっとTPメンバーはあの夜を覚えているだろう。いろんな人が部屋から避難し一つの部屋に集まった。私の同居人もその夜耐えられずに出て行った。みんなの心配をよそに、私は人おらんからゆっくりできるーと思って音楽かけてるんるんしてましたがそのまま寝落ちし、爆睡しました…。みなさんタイではホテルが思ってたよりボロボロだったり何が起こるかわかりません。万全の準備対策を。

長尾　咲良

『カニチャーハンと味噌汁』

タイでは屋台文化が根付いており、いたるところに屋台があります。私と副代表はその日もいろんな屋台で買い食いをしていました。そこである屋台に出会いました。カニチャーハンです。最初はそこをスルーしていましたが、時間が経つにつれてその屋台が頭から離れません。結局30分くらいさまよいなんとかカニチャーハンに出会うことができました。屋台の人がきゅうり、謎の葉っぱ、味噌汁をつけてくれました。また食べたいです。

佐々木　そら

『ググダダサプライズ』

2月某日、タイで19歳の誕生日を迎えた我らが副代表たまみを移動中のバンでバースデーソングを流してお祝いすることになった。曲を流す重要な役割を担うのはMさん。話で誤魔化しながら操作すると思えば、「たまみ見んといてー笑」と言いながらキーボードで視界を隠すという大胆な作戦に。上手く画面を隠せてない＆打ち込んでる文字が丸見えなのもあり、たまみは「全部見えてるよー笑」と苦笑い。何とか検索を終えやっと流れた曲は、まさかの全く聴いたことのないタイのパリピ曲。運転手さんのご好意でミラーボールも周り完全にパリピ空間。全員大爆笑。 手こずりまくりサプライズだったが、無事プレゼントも渡すことも出来たので結果的には大成功(のはず)。

内藤　未空

『男子の寝る場所』

これは2日目のお話。

夜、男子はじゃんけんで勝った2人がベットで、負けた1人が布団で寝ていました。すると夜中、女子から電話がかかってきて「布団を貸して欲しい」、、、訳がわかりません。でも権力のない男子はyesというしかありませんでした。そして仲良く3人でベットに寝たそうです。

めでたしめでたし

稲見　克宥

『びっくりお風呂』

タイのホテルのお風呂は日本とは全然違いました。まずびっくり！扉がガラスで脱衣所がない！日航のホテルは日本のホテルに似ていて脱衣所的なところはあったけど、タイのホテルにはないので、同部屋の子に隠れてこそこそしてました。これこそ本当の裸の付き合い？？扉の下の方地味に隙間あって水出てたし笑浴槽はなくて人1人のスペースだけで新鮮でした。10日間いたけど慣れなかったです。あと、、タイの硬水は初ブリーチしたばかりの私の髪の毛にはダメージしかなかったです（T-T）悔しい。髪のダメージ嫌なひと！現地でシャンプー、トリートメント買いましょう！

加治　瑞美

現地で買い物をしていた時、信じられない光景が目の前に広がりました。Mさんは何着もの洋服を買い、お店を出るとすぐにその場で着替え始めたのです。まるで早着替えの達人のように、あっという間に別の服装に着替えてしまいました。私は驚きを隠せませんでした。Mさんはその後も、ワンピースや帽子を身に纏い、まるでファッションショーをするかのような、私たちに購入品を紹介してくれました。私はただただ彼女に魅了されていました♂

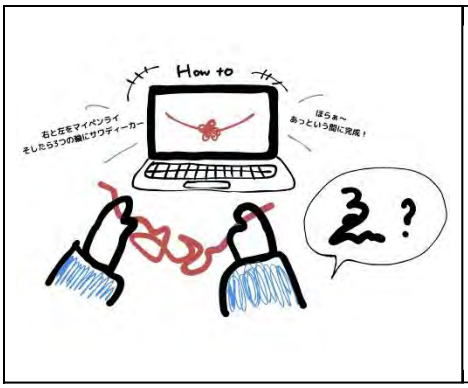
佐竹　結子

『TP代表、時速100キロバンの中で大化粧&カオスな車内』

これは、とある日のバン内のこと。農村の子どもたちとの別れを経験し、寂しさにくれていた車内。農村での経験を振り返りながら余韻に浸っていた。それもつかの間。我が代表が涙で完全にとれたメイクを爆速バンの中でしようと言い出した。彼女は実況を交えながらまずビューラーを取り出し、まつげを上げ始めた。見事に成功。アイラインも見事に引き終わってしまい、もう少し乱れることを期待していた先生、TAさん、自分は不完全燃焼で終わったのだった。彼女のトーク力は代表たる所以である。この一連の流れを全く知らずにバンに乗っていたもう１人のメンバーは、半目というよりほぼ全開で目を開けながら寝ていたR氏である。

中里向日葵

【～水引職人への道～】



①水引班発足後、いざ作ってみようとしたがこれが難しい！全然できない。初っ端からめげました。

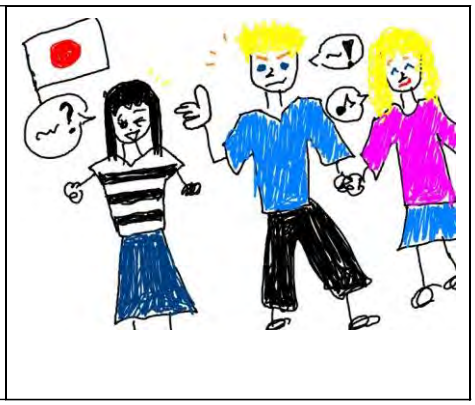
②一回やり方覚えるともう余裕！もはや趣味としてハマってしまい作品は次々に誕生、、、

③いつの日か「水引職人」の名を手に入れました。将来就職に困ったら水引屋さん開こうかな。(ゆみ)

【学びがたくさんタイプロ！】

①渡航前は、バイト中や道端で外国人に話しかけられると困惑してしまうことが多々ありました。

②しかし、タイに行ってからサティカセの学生たちといっぱいお喋りできたことで、英語が苦手でもノリでコミュニケーションを取れることに気が付きました！！



③それから、日本に帰ったあとも、バイト中の外国人への接客を自信持って楽しくできるようになりました！！！(せあ)

【私とパーサータイ】

① タイドラマにはまって出会ったタイ語。サワディーカーなんて単純なものじゃない!!…と、興味本位で勉強してみる。

②単語はあまり覚えられなかったけど、渡航の前に巻舌と鼻にかかるような発音には慣れることができました。

③いざ現地で喋ってみると、上手！と沢山褒めてもらえてすごく嬉しかったです！ もっと喋れるようになりターイ。(れいな)

【とにかくオーバーリアクション！】

①渡航直前は全然タイ語勉強出来てないことに大焦り。とりあえずフレーズ詰め込んでみた。

②そんな付け焼き刃の知識じゃ現地の子達に伝わらず、、

③タイ語での会話は諦めてとりあえず英語で大きくリアクションすることにシフトチェンジ!そうすることで現地の子と楽しい雰囲気を作れるようになりました!(わかな)

【サッカーの持つ力】

①向こうの生徒とうまくコミュニケーションが取れるか心配だ。

②休み時間に男子生徒たちとサッカーをしたらとても盛り上がった。

③気づいたら完璧な会話が成り立たなくても、コミュニケーションをとることができるようになった(ともや)

【タイ雑貨】

①渡航前はタイの雑貨とか派手でなかなか身に付けれないからあまり買わないつもりやった

②ただ派手なだけじゃなく、ポップな可愛さもあり、買うやつどう絞ろうかめっちゃ迷った

③正直日本で普段使いできるのは少ないけれど結局愛用してる(じゅり)

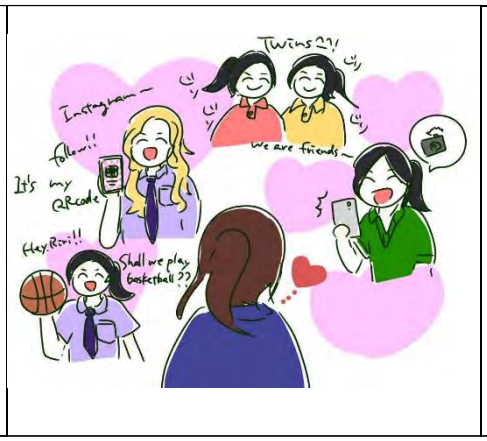
【タイでの一期一会】

①タイってどんな国なんだろう？どんな人柄の人が多いのだろう？ご飯はどんな味がするのだろう？気候はどのような感じなのだろう？タイの学生はどういうふうに日本語を学び、どのような将来を考えているのだろう？というたくさんの「知りたい」を解明するべく、自分の目と体で確かめにタイへ行く！

②タイへ行ったら、楽しい日々が待っていた美味しいタイ料理に果実100%のジュース、プール遊びなど料理とアクティビティを体験し、充実した毎日を送った。中でも１番の思い出はタイの学生との交流だ。英語でのディスカッションをしたり、お昼休憩に遊んだり、ランタンやタイのお菓子を一緒に作ったりして、とても絆が深まった。お別れの時はみんな涙が止まらず、悲しかったが、タイのみんなに出会えてよかったと心の底から思った！

③他にも現地の学生とランタンあげを体験したり、象に乗ったり、自分でスピードを調節するジェットコースターに乗ったりするなど、現地の風を感じながら過ごした 10 日間は、多くの学びと感動があり、最高だった。一期一会を大切にこれからも人との出会いを大切にしていきたい！(ましろ)

【仲良くなるのに言語はあんま関係ない！】



①タイで言語通じるんかなあ、英語でこられても早すぎて分かっても話されへんなあって不安になってました。

②みんな想像以上にフレンドリーで、たくさんジェスチャーをして翻訳を使ってくれてと話しかけてきてくれた

③写真をたくさん撮ったりバスケしたりランタン飛ばしたりと楽しい思い出が沢山出来ました。タイ最高！言語通じやんくてもいける！(りり)

VISION・MISSION・RULE 達成度報告！

初顔合わせから事前講義・渡航・事後講義と、約１年間活動を共にしてきた我々TP10 期である。最後に、TP10 期全員で設定した VISON・MISSION・RULE がどれほど達成されたのかを振り返っていく。
まずは、改めて TP10 期の VISON ・MISSION・RULE を示す。

VISION

挑戦から最高の経験へ！～まだ知らない世界を見つけタイ～

MISSION

(1) 計画的に活動する
(2) 常識にとらわれない企画作り
(3) メンバー間で、気づき・発見を共有する
(4) SNS を活用して、TP での経験を１人でも多くの人に発信する

RULE

①情報共有を置き去りにしない
②仲間の声に全員が反応して１人で抱え込まない
③行動に責任を持ち中途半端にしない
④タイの生活・文化を尊重する

※RULE→MISSION→RULE の順で振り返っていく。

RULE①　情報共有を置き去りにしない　　*達成度 69%*

→基本的には班内や、LINE 等でしっかり情報共有が出来たという意見が多かった。しかし、全員が完全に情報の理解が出来ていたとは言い切れず、情報共有をしてくれた TP10 期メンバーへの反応も弱い時があった。

RULE②　仲間の声に全員が反応して１人で抱え込まない　　*達成度 51%*

→意見が割れた。各班の班長が仕事を抱えてしまったり、仕事を依頼しても反応してくれなかったりという場面があった。仲間の声に反応する人が限られていたのが良くなかった。

RULE③　行動に責任を持ち中途半端にしない　　*達成度 81%*

→1 人 1 人が達成出来ていたかは危ういところがあるが、全体としては企画を最後までやり切り、本番で変更があっても全員で協力することが出来た。1 人 1 人の努力があってこそやり遂げられた。

RULE④　タイの生活・文化を尊重する　　*達成度 90%*

→多くの TP10 期メンバーが、現地で学んだ参拝のルールや作法を守って行動出来ていた。もっと積極的にタイの文化を学ぶ姿勢があったら、さらにタイを感じ、味わうことが出来たかもしれない。

MISSION (1) 計画的に活動する　　*達成度 66%*

→渡航直前まで準備が残っていたところがあり、詰めが甘い部分があった。過去の報告書を読み込んでイメージを膨らませたり、to do リストを作る担当者を決めたりすると良かった。

MISSION (2) 常識にとらわれない企画作り *達成度 79%*

→常識にとらわれないとはどういうことなのか、TP10 期内で定義づけをもう少ししっかり行うべきだった。最初に企画を検討する際は、実現可能性を考えながらも、縛られずに楽しくアイデアを出し合うと良いと思う。

MISSION (3) メンバー間で、気づき・発見を共有する *達成度 74%*

→渡航中、反省会を定期的に行って TP10 期メンバー1 人 1 人がどう思っているのかを話し合う時間を取ることはとても重要だと感じた。出来るだけ渡航前にコミュニケーションをたくさんとり、本心で話せる関係を構築しておくと良いと思う。

MISSION (4) SNS を活用して、TP での経験を一人でも多くの人に発信する *達成度 88%*

→インスタ班が素晴らしい投稿を作り続けてくれた。運営方法については早めに検討していくと良いと思う。

VISION　挑戦から最高の経験へ！～まだ知らない世界を見つけタイ～ *達成度 86%*

→渡航中、企画を行っているときや、企画が成功したとき、学生と交流しているときに VISION を意識したメンバーが多かった。それぞれが TP で数々の挑戦を行い、一生に 1 度のかけがえのない経験を共に掴み取った。

～編集後記～

この報告書が作られるまでに渡航前の事前準備も含めると
１年以上の時間がかかっています。メンバーと積み上げてきた
TP10 期としての成果がこの報告書に詰まっているので、
私は、編集局として報告書作成に携わることができたことをうれしく思います。また、作成の中では慣れないことが多く大変なこともありましたが、自分たちの体験を書いたこの報告書が次の子たちにとって参考になってくれたらうれしいです。

佐々木　そら

TP10期報告書を、
ここまで読んで頂きありがとうございます。
この報告書には、TP10期の生の経験、団結の過程が詰まっています。ほぼ皆が初対面で始まったTP。
見ず知らずのメンバーが知恵を持ち寄って
意見を交わし、タイで企画を成し遂げていくまでには、幾重の困難や葛藤がありました。
しかし、それ以上に楽しかったと思えるTPでした。
私たちが現地で何を感じたのか、後輩へのアドバイスも記載しています。
自分たちの代の色を出しながら、是非参考にしてもらえたらと思います。
TPで出会えた最高の仲間とともに、
かけがえのない一生の思い出を！！

中里　向日葵

TP10期の報告書を最後までご覧いただき
ありがとうございます。コロナ禍により数年ぶりの
再開となったタイプログラムで、私たち自身分から
ないことが多く不安や失敗もありました。
だからこそタイプログラムを通して学んだことは
とても多く、反省や次からの代に伝えたい
アドバイスも生まれました。
これは未来のタイプログラムメンバーに
必ず読んでほしい報告書です。
それと同時に私たちTP10期の沢山の思い出が
詰め込まれた報告書です。この報告書がきっと
11期の役に立ち、私たち10期がいつでも活動を
振り返れるようなものになれば嬉しいです。

中川和奏

TP10期が結成されてから1年、
私たちがどんなことを経験し、
何を思い、何を学んだのか。
この報告書には、
そんな一人ひとりの想いが
存分に詰め込まれています。
この報告書が、これから
タイプロに参加する皆さんの
何かの力になったり、TP10期の
みんながこの1年を思い出す
きっかけになってくれたら
嬉しいです。
活動報告以外にも、
コラムや3コマ、可愛い表紙など
様々な魅力を詰め込んだので、
ぜひ楽しんでください。
最後までお読みいただき
ありがとうございました。

手塚　有海

私は編集部という立場でいくつかの報告書の
校閲をしてきました。報告書は時間との戦い
の中で、どれだけまとまって一貫性のある内
容のものを作れるかが難しく、作業が行き詰
まってしまうことも多々ありました。複雑な
ルールや校閲によるたくさんの指摘があった
中でも最後には、魂のこもった文章を上手に
報告書にまとめることができたと感じていま
す。皆さんもこの報告書からTP10期の熱い
思いを感じ取ってくれたらいいなと
思います。

稲見　克宥